

◎指示があるまで開かないこと

24

第5学年

カードコード：504

注意事項

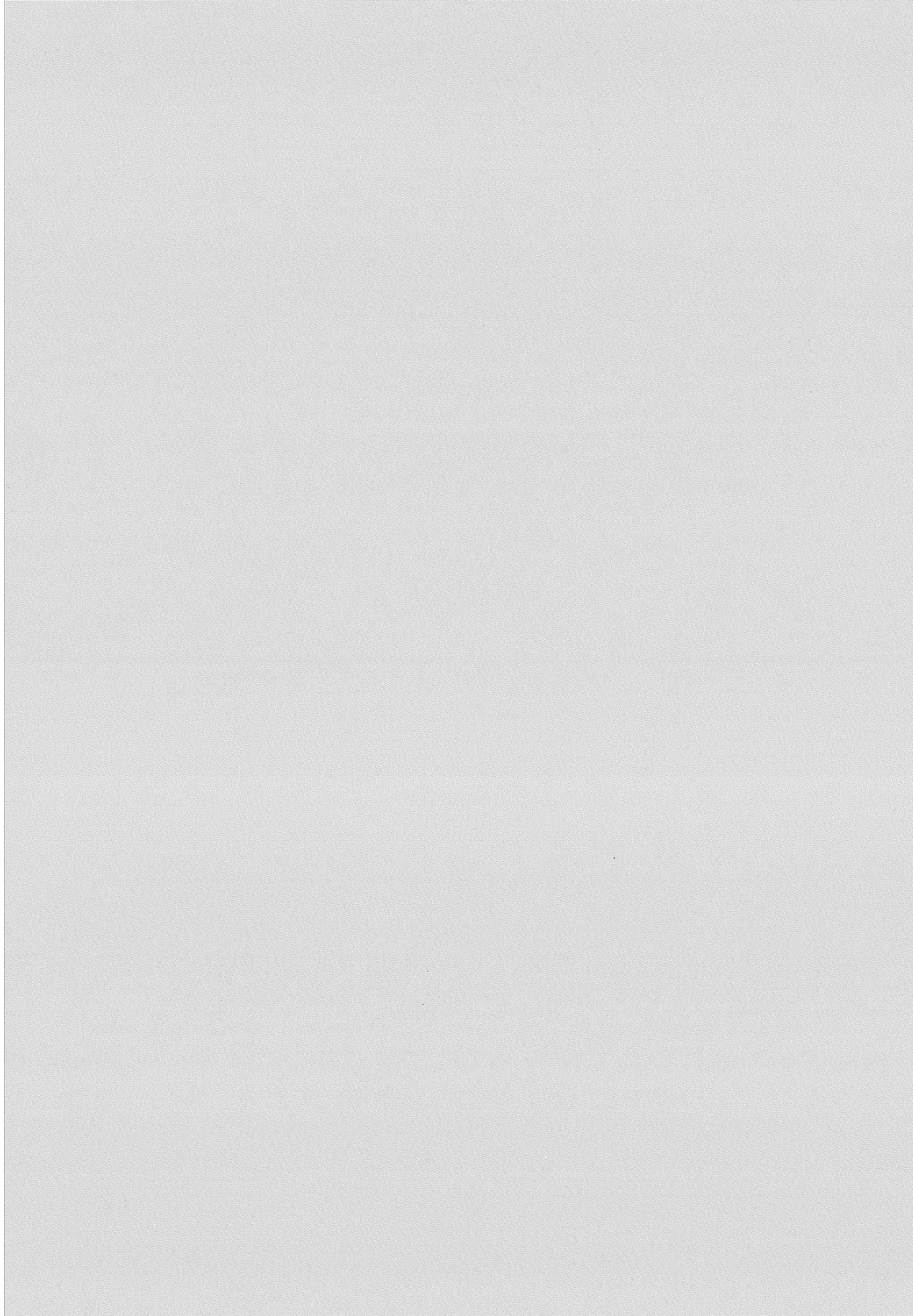
1. マークシートには必要以外のマークおよび記入をしてはならない。これらが守られないときは誤りとして処理される。
2. マークシートには解答の他、必ず以下の事項を記入又はマークすること。
 - (イ) 学年、クラス、学籍番号、氏名を記入し、かつ学籍番号をマークする。
 - (ロ) カードコード：問題の最初のページに今回実施の客観式試験のカードコードが記載されているので、当該コードを必ず記入すること。

カードコード表

本 試 験	実 施 日	カードコード	出題数	試 験 時 間	
	第1日目 2月12日(火)	501	34問	10:00～11:40	(100分)
		502	34問	13:00～14:40	(100分)
		503	34問	15:00～16:40	(100分)
	第2日目 2月13日(水)	504	34問	10:00～11:40	(100分)
		505	34問	13:00～14:40	(100分)
		506	34問	15:00～16:40	(100分)

学籍番号

氏名



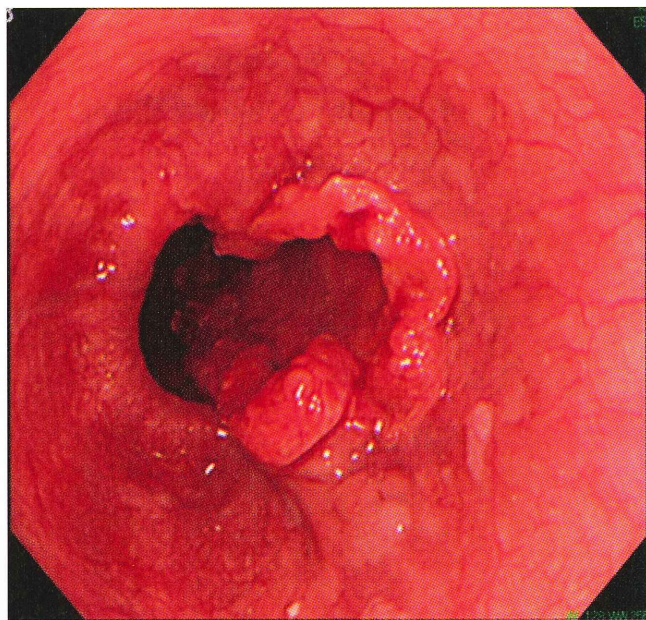
- 1 75歳の男性。2か月前から嚥下時のつかえ感を自覚し増強してきたため来院した。2か月で体重が5 kg減少し、右肩甲骨、右肋骨に疼痛を伴う。意識清明で表在リンパ節は触知しない。右季肋下に肝臓を2横指触知する。

血液学所見：白血球 5,600、ヘモグロビン 10.5 g/dl、血小板 13 万。生化学所見：総蛋白 6.2 g/dl、アルブミン 3.8 g/dl、クレアチニン 0.96 mg/dl、総ビリルビン 0.8 mg/dl、AST 60 IU/l、ALT 58 IU/l、ALP 680 IU/l（基準 115～359）、カルシウム 11.5 mg/dl。免疫学所見：SCC 4.3 ng/ml（基準 1.5 以下）。

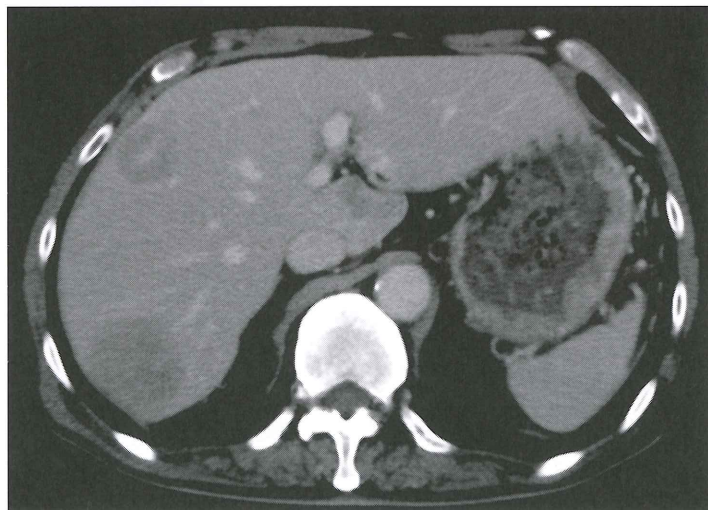
食道の内視鏡写真と腹部CT写真を示す。

治療法として**適切でない**のはどれか。2つ選べ。

- a 緩和療法
- b 化学療法
- c 放射線療法
- d 内視鏡的切除術
- e 食道根治切除術



内視鏡写真



腹部CT写真

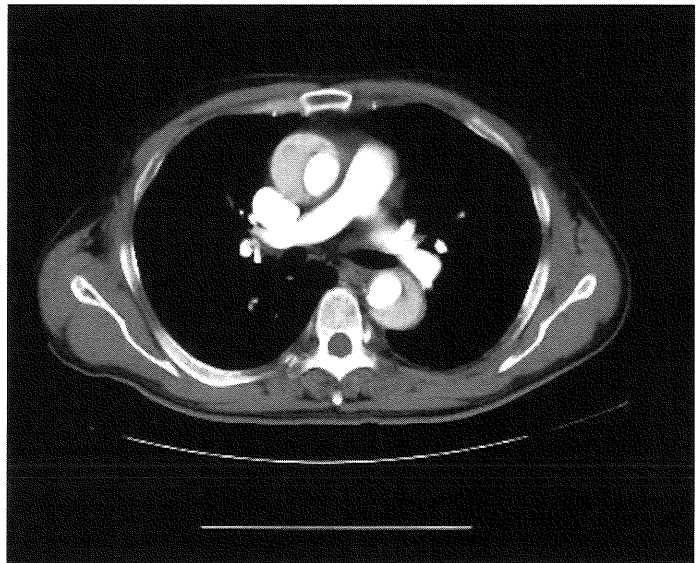
2 食道癌の治療について正しいのはどれか。

- a 放射線照射は効果がない。
- b 免疫療法が第一選択の治療である。
- c 化学療法により根治することが多い。
- d 胸部食道癌に対する外科治療における病変への到達経路は右開胸が多い。
- e 胸部中部食道癌では腹部のリンパ節に転移することはない、リンパ節郭清は縦隔のみ行えばよい。

3 58歳の男性。5年前より高血圧、高脂血症に対して内服治療中。午後11時ごろ自宅のパソコンで仕事に、突然胸背部の激痛と下肢虚脱を自覚したため救急要請。下肢虚脱は病院到着前に改善。当院搬送時脈拍 94 /分、整。血圧 176/90 mmHg。意識清明。心電図は洞調律でST-T変化はなし。胸部単純エックス線写真上心陰影は軽度拡大、肺野に異常なし。胸部造影CT検査を示す。

最も適切な治療法はどれか。

- a 血栓溶解薬投与
- b ニトログリセリン舌下投与
- c 心嚢ドレナージ術
- d 冠動脈バイパス術
- e 上行大動脈置換術



胸部造影CT検査

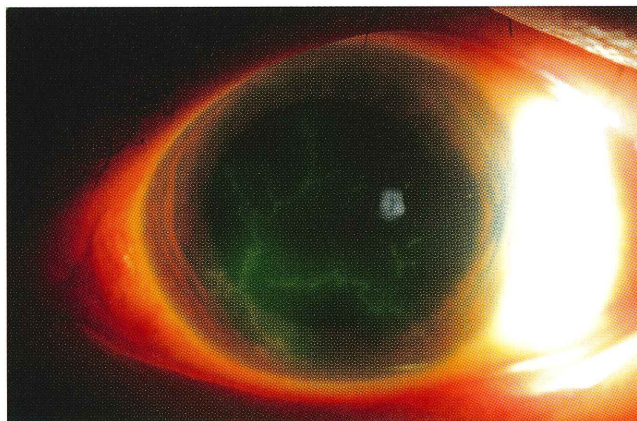
4 じん肺について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 石綿肺の特徴として胸膜病変を伴う。
- b じん肺の合併症の一つに肺結核がある。
- c じん肺の管理区分は産業医が決定する。
- d じん肺の有所見者数は年々増加している。
- e じん肺健康診断では肺機能検査を必ず行う。

- 5 62歳の女性。20年来のリウマチにて内科通院中である。1週間前より体調が悪化し、内服しているステロイド薬が増量となった。数日前から右眼に違和感とかすみを自覚したため眼科受診した。受診時の右眼の前眼部写真を示す。

正しいのはどれか。

- a 角膜知覚は過敏になっている。
- b 抗菌薬の全身投与が有効である。
- c ステロイド点眼を併用する。
- d アシクロビル点眼が有効である。
- e アシクロビル眼軟膏が有効である。



前眼部写真

- 6 19歳の女性。2か月前から両下肢に強いそう痒感を伴う皮疹が多数認められたため受診した。下腿に500円玉大の類円形の境界明瞭な紅斑上に漿液性小丘疹が集簇し、局面を形成していた。下腿の写真を示す。

診断はどれか。

- a 貨幣状湿疹
- b 接触皮膚炎
- c 脂漏性皮膚炎
- d うっ滞性皮膚炎
- e 皮脂欠乏性湿疹



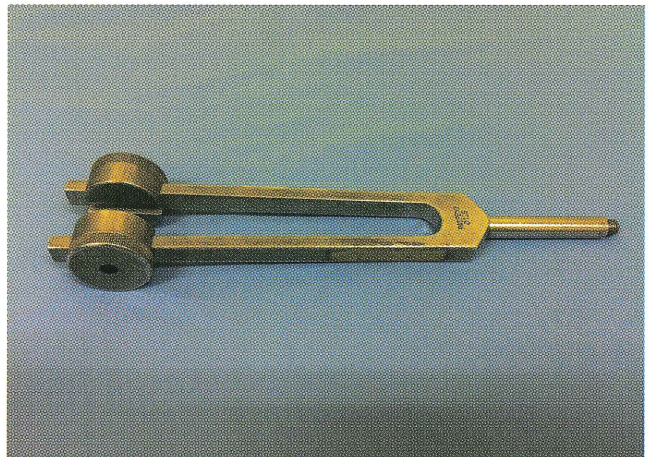
下腿の写真

次の文を読み、7～8の問いに答えよ。

22歳の女性。接客業。下肢末梢のしびれを主訴に来院した。1か月前から両側四肢の末梢にしびれを自覚し、症状が改善しないため来院した。先行する感染症状はなかった。神経疾患の家族歴はない。接客業であり、ほぼ毎日大量の飲酒をしている。また6か月前から過度の減量を行い、6か月で約12 kg減量した。意識は清明。身長160 cm、体重36 kg。体温35.6℃。脈拍42 /分、整。血圧92/48 mmHg。身体所見上、るい瘦を認めるが、胸腹部に他の異常所見や足の変形は認めない。血液検査では血糖72 mg/dl、HbA_{1c} 5.2 %。

7 図の器具を用いて評価するのはどれか。

- a 痛 覚
- b 嗅 覚
- c 温痛覚
- d 振動覚
- e 平衡感覚



図

8 末梢神経障害の原因はどれか。

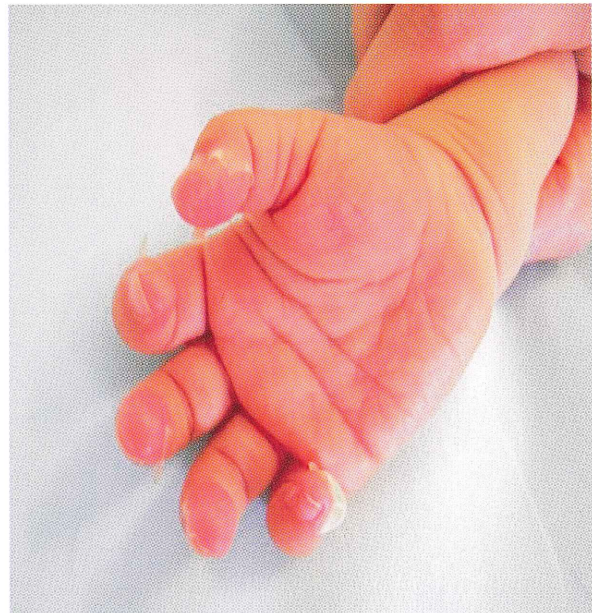
- a 手根管症候群
- b 糖尿病神経障害
- c ビタミンB1 欠乏
- d ギラン・バレー症候群
- e Charcot-Marie-Tooth 病

9 2歳6か月の男児。6日前から続く高熱を主訴に来院した。半年前から保育園へ通園している。既往歴に特記すべきことはない。38℃以上の発熱が続いており、活気がなく、食事摂取は普段の半分以下である。意識は清明。眼脂を認めないが、眼球結膜に充血を認める。口唇の発赤を認める。左側の頸部が著明に腫脹しており、痛がり首を動かそうとしない。軽度の鼻汁を認める。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。体幹と手指末端に紅斑を認める。体温 38.9℃。呼吸回数 30 回/分。心拍数 100 回/分。

血液所見：赤血球 450 万、Hb 13.2 g/dL、Ht 40 %、白血球 22,000、好中球 82.0 %、血小板 28 万。
血液生化学所見：総蛋白 5.9 g/dL、アルブミン 3.0 g/dL。CRP 16 mg/dL。1 か月後、手の指先に図のような変化を認めた。

この疾患について適切なものはどれか。

- a 血尿を来すことが多い。
- b 予防接種が有効である。
- c 第一選択薬は抗菌薬である。
- d 後遺症の確認のため心臓超音波を行う。
- e 頸部の腫脹している部分は化膿している。



図

10 75歳の女性。微熱、左鎖骨上無痛性リンパ節腫大があり、悪性リンパ腫を疑われて外来を受診した。頸部、脇窩、上肢に傷口、打撲の跡は認められない。

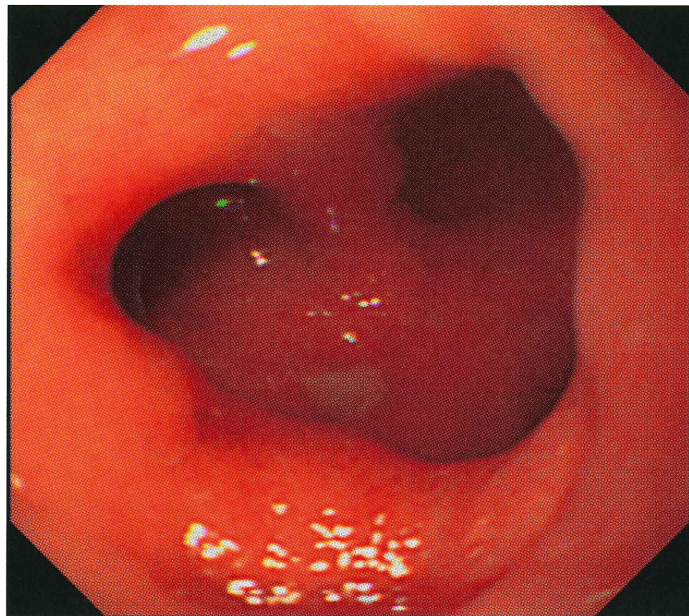
鑑別疾患として考えにくいのはどれか。

- a 結核
- b 肺がん
- c 胃がん
- d サルコイドーシス
- e 化膿性リンパ節炎

11 48歳の女性。数日前から上腹部痛が出現していたが、今朝タール便の排出を認めたため来院した。
上部消化管内視鏡写真を示す。

この疾患について正しいのはどれか。

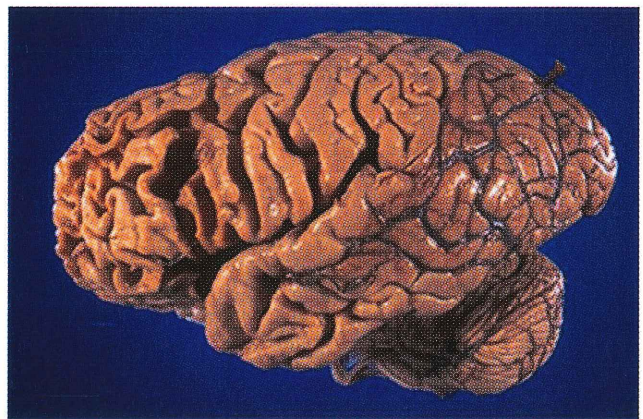
- a 低酸を呈する。
- b 食後の痛みが特徴である。
- c 吐血で発症することはない。
- d 十二指腸下行部に好発する。
- e ヘリコバクターピロリ菌の徐菌が有効である。



上部消化管内視鏡写真

12 62歳の男性。認知症とその合併症で死亡した。剖検でえられた脳の肉眼所見を示す。
本例で見られる認知症の特徴として適切なものはどれか。

- a 病的変化は頭頂葉に強い。
- b 不随意運動を伴うことが多い。
- c もの盗られ妄想が出現しやすい。
- d ヒトからヒトに伝播することがある。
- e 病初期に性格変化が出現しやすい。



所見

13 54歳の男性。口渴を主訴に受診した。

現病歴：15年前に2型糖尿病と診断され、経口血糖降下薬にて治療をされていた。

食事療法は比較的守られていたが、1年前より仕事が忙しく、生活が不規則になった。

2か月前より口渴が出現し、1日に2Lの飲水をしている。また同時期より多尿も認めている。

3か月前の眼底検査では網膜症を認めなかった。

家族歴：父親が2型糖尿病

現 症：意識は清明。身長165 cm、体重56 kg。体温36.0℃。呼吸数16回/分。脈拍82/分、整。

血圧126/72 mmHg。貧血と黄疸を認めない。

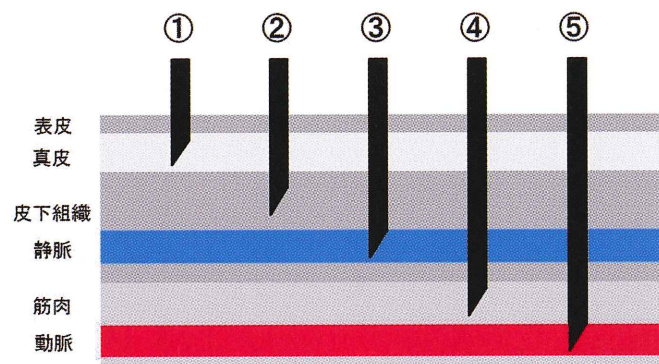
舌は乾燥なし。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾は触知しない。

検査所見：尿所見：蛋白（-）、糖（4+）、ケトン体（-）。血液検査所見：空腹時血糖 326 mg/dL、HbA1c 12.6%（JDS基準4.3~5.8%）。

外来にて経口血糖降下薬を中止し、インスリン療法を開始した。

下図でインスリンの最も適切な注射深度はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤



図

14 在胎 27 週、980 g で出生した新生児。

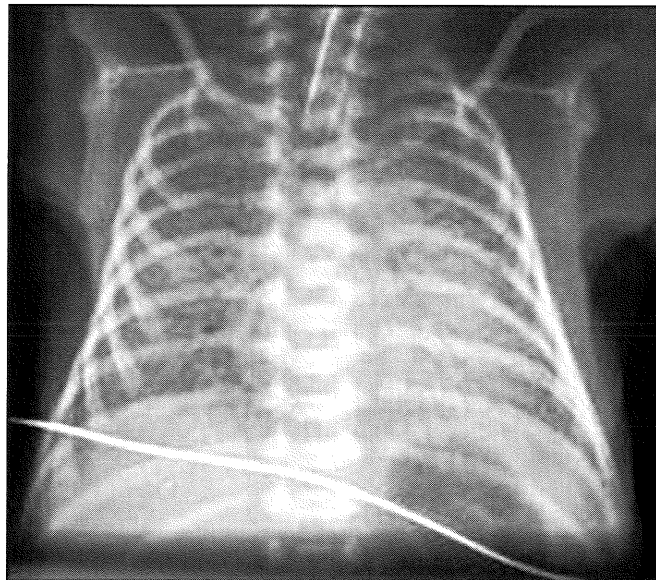
母体は、切迫早産のため産科病棟に入院、子宮収縮剤投与、安静で管理されていたが今朝から子宮収縮がみとめられ分娩不可避と判断、骨盤位のため帝王切開で出生した。Apgar Score 1 分 5 点、5 分 7 点。

末梢チアノーゼがあるため酸素 3 L/分の投与を行った。生後 15 分、陥没呼吸を著明に認め、呻吟も認めている。SpO₂ モニターは 89 %、心拍 170 /分、呼吸数 60 回/分。マイクロバブルテストの結果は、very weak であった。生後 20 分での胸部エックス線所見を示す。

呼吸不全と診断し人工呼吸器管理を開始したが、陥没呼吸は改善せず、SpO₂ モニターの値は不変であった。

最も必要な治療は何か。

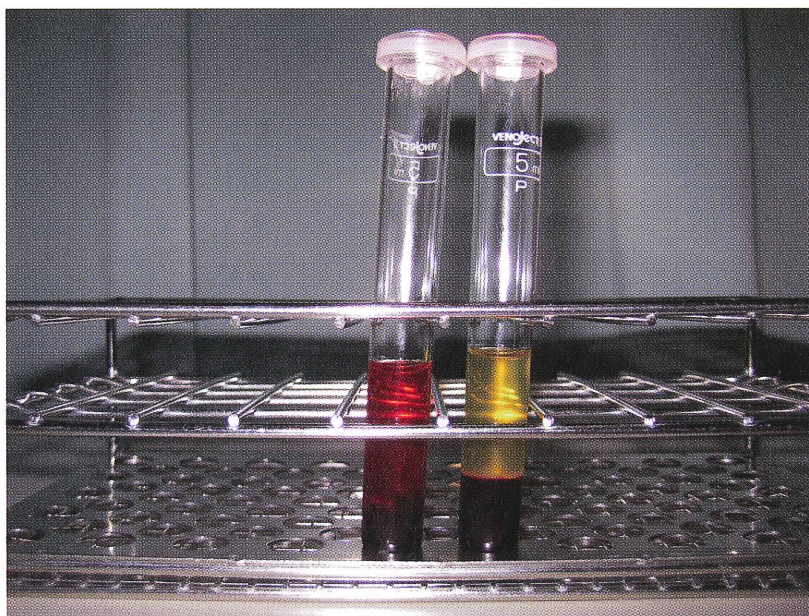
- a 一酸化窒素吸入療法を開始する。
- b 気管内を生理的食塩水で洗浄する。
- c 先天性心疾患を疑い心臓超音波を行う。
- d 気管挿管し、人工肺サーファクタントの気管内投与を行う。
- e B 群溶血性連鎖球菌による肺炎を疑いペニシリン投与を開始する。



胸部エックス線所見

15 採血後に遠心した検体が2本ある。左側の検体の検査結果について誤っているのはどれか。

- a AST 増加
- b CK 増加
- c LD 増加
- d K 増加
- e ハプトグロビン低下

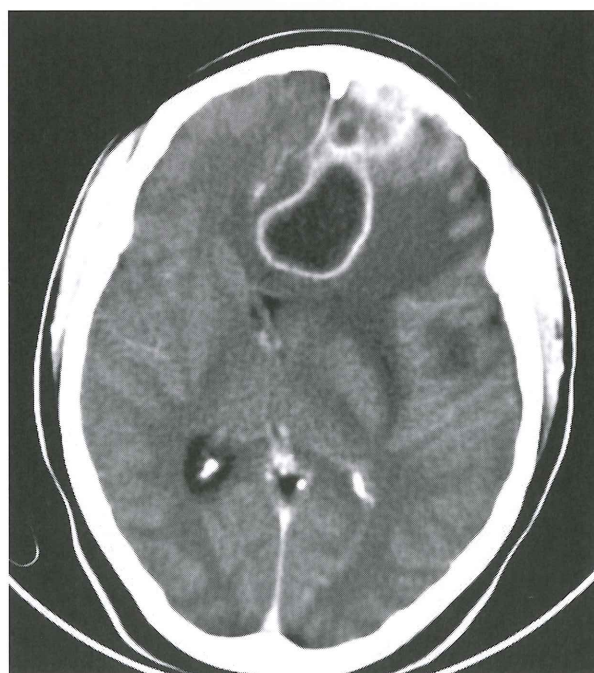


検体

16 63歳の女性。頭痛と嘔吐を主訴に来院した。1週間前から頭痛と嘔吐があり、2日前から38℃台の発熱も見られるようになった。既往に副鼻腔炎がある。頭部造影CTを示す。

次に行うMRIにおいて、この患者の診断に最も有用なのはどれか。

- a FLAIR 像
- b T1 強調像
- c T2 強調像
- d 拡散強調像
- e 造影 T1 強調像



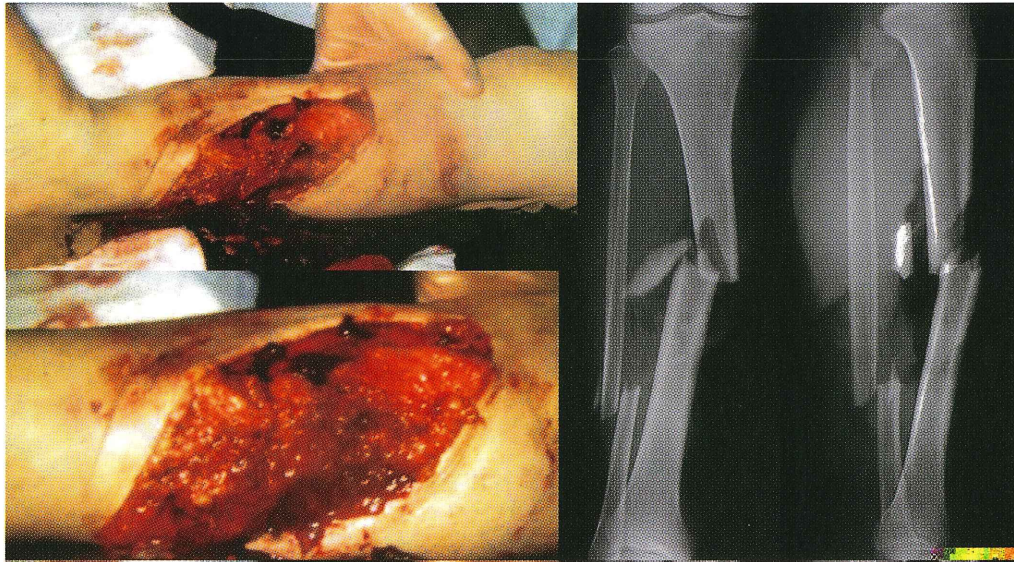
頭部造影CT

17 25歳の女性。スクーターで走行中に乗用車と接触し、受傷した。

右下腿の外観写真および単純エックス線写真を示す。

この外傷に対するただちに行う処置として正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 下肢切断
- b 創の縫合
- c ギプス固定
- d 抗菌薬投与
- e デブリードマン



外観写真および単純エックス線写真

18 脊髄くも膜下麻酔において正しいのはどれか。

- a 長時間手術に有効である。
- b 非常に細い針を用いるので消毒操作は必要ない。
- c 麻酔効果発現が硬膜外麻酔より早い。
- d 頭蓋内手術に有用である。
- e 麻酔後の循環変動は硬膜外麻酔より少ない。

19 術中迅速病理組織診断について誤っているのはどれか。

- a 手術切除範囲の決定に有効
- b 永久組織標本より診断精度は劣る
- c 所要時間は概ね1時間以内
- d 冷却ホルマリンによる組織の急速浸透固定
- e 病変の良悪鑑別診断が可能

20 46歳の男性。自転車走行中に転倒し、路面にオトガイ部から激突した。来院時、右耳前部に圧痛が著明で、開口は1横指であった。また、下顎歯列の乱れがあり、明らかな咬合不全を生じていた。

この患者の診断名として現時点で最も適当なのはどれか。

- a 鼻骨骨折
- b 頬骨骨折
- c 下顎骨骨折
- d 眼窩底骨折
- e Le Fort型骨折

21 図の医療機器は何か。

- a 麻酔器
- b 人工呼吸器
- c 血液透析装置
- d 気道加湿装置
- e 超音波診断装置

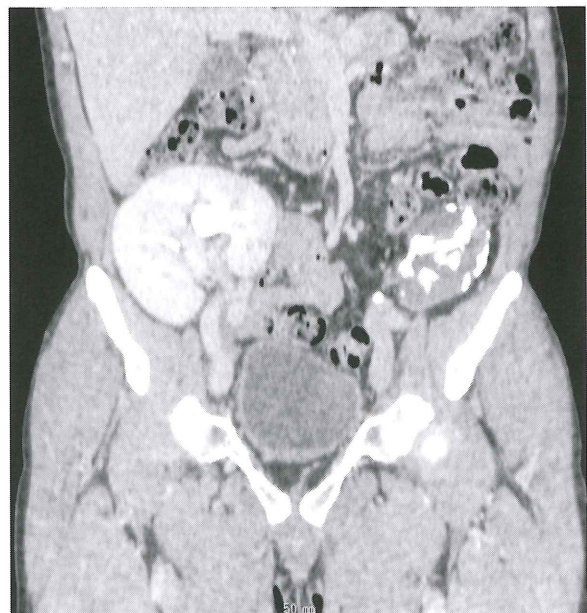


図

22 1か月前に図のような検査画像を示した腎移植患者が37.8℃の発熱で外来受診をした。右下腹部に鈍い圧痛を認める。また、尿量の減少(1,800→700 ml/day)、血清クレアチニン値の上昇(1.0→1.8 mg/dl)を認めている。

この患者に対して次に行う検査として正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 血液培養
- b 腎針生検
- c 膀胱鏡検査
- d 逆行性腎盂尿管造影
- e 腎ドップラー超音波検査



図

23 52歳の女性。地震による自宅全壊により、1週間前より軽自動車内の座席で寝泊まりを続けていた。本日突然の胸部苦悶感に引き続き意識消失を起こし、緊急入院となった。入院時は意識清明となり呼吸数28/分、脈拍98/分、血圧132/82 mmHgで、軽度の呼吸困難感が残存していた。

入院の時点で、**行うべきでない**処置はどれか。

- a 左房内腫瘍除去術
- b 抗菌薬長期大量投与
- c 血栓溶解療法
- d 電氣的除細動
- e 経皮的僧帽弁裂開術

24 32歳の男性。腹痛と黒色便を主訴に来院した。

現病歴：20歳代より、口腔内の有痛性アフタ性潰瘍が繰り返し出現している。1年前に眼科でぶどう膜炎と診断された。1か月前から下痢と右下腹部痛が持続している。2日前より黒色便を認めた。

既往歴：特記すべきことはない。

生活歴：喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

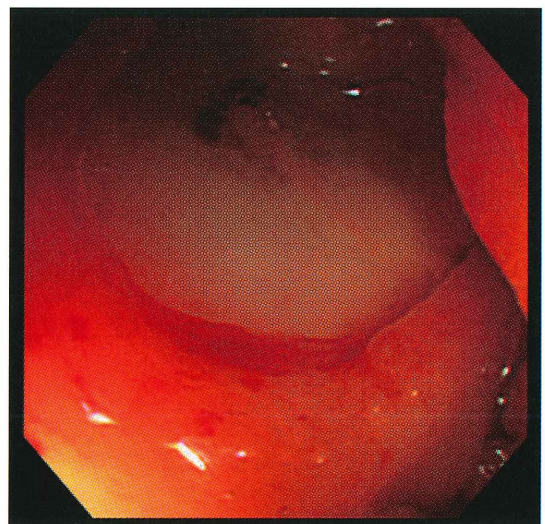
家族歴：特記すべきことはない。

現 症：意識は清明。身長178 cm、体重65 kg。体温37.2℃。脈拍74/分、整。血圧102/74 mmHg。腹部は平坦、軟で、右下腹部に圧痛を認める。陰嚢に潰瘍を認める。

検査所見：血液所見：赤血球359万、Hb 9.9 g/dl、Ht 30.9%、白血球15,100（好中球85.7%、好酸球0.5%、リンパ球10.2%、単球3.5%、好塩基球0.1%）、血小板24.5万。血液生化学所見：総蛋白6.4 g/dl、アルブミン3.6 g/dl、尿素窒素29 mg/dl、クレアチニン1.1 mg/dl、総ビリルビン0.2 mg/dl、AST 13 IU/l、ALT 9 IU/l、CRP 3.2 mg/dl。回盲部内視鏡写真を示す。

この疾患に**みられない**のはどれか。

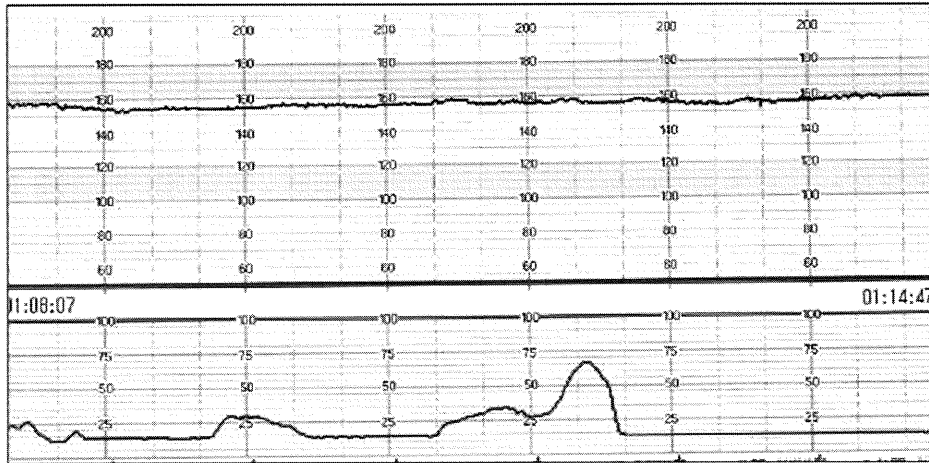
- a 髄膜炎
- b 副睾丸炎
- c 結節性紅斑
- d 間質性肺炎
- e 血栓性静脈炎



回盲部内視鏡写真

次の文を読み、25～26の問いに答えよ。

28歳の女性の1回経産婦。現在妊娠34週5日。切迫早産の診断で妊娠28週より入院し、塩酸リトドリンの持続点滴静注をおこなっている。子宮収縮の訴えがあったため胎児心拍数陣痛図（CTG）を40分間記録したところ図のごとくであった。超音波検査では推定体重2,300g、胎位は第1頭位第1胎向、胎盤は子宮底部に付着しており、剥離所見なし。30分の観察で胎児呼吸様運動が最長20秒間持続、体幹の運動が2回、四肢の伸展・屈曲が1回、手掌の開閉動作が1回みられた。羊水ポケットは5.5cmであった。内診所見で子宮口は1cm開大である。



図

25 バイオフィジカルプロファイルスコア（BPS）は何点であるか。

- a 10
- b 8
- c 6
- d 4
- e 2

26 この場合の対応について正しいのはどれか。

- a 経過観察でよい。
- b 帝王切開の準備をする。
- c 塩酸リトドリンの投与量を増量する。
- d 副腎皮質ステロイドを母体投与する。
- e 硫酸マグネシウム点滴静注を併用する。

27 56歳の女性。2週間前より右眼が眩しく感じることに気付いていた。3日前より物が2重に見える様になり、右まぶたが下がっている事に気がつき来院した。診察時、意識清明。右の瞳孔 および 眼位異常を認めた。脳血管MRAを行ったところ、右内頸動脈-後交通動脈分岐部動脈瘤を認め緊急入院となった。体温 36.3℃。血圧 128/78 mmHg。脈拍 66/分。

診察時所見の組合せで正しいのはどれか。

- a 瞳孔縮瞳————外転位
- b 瞳孔散瞳————内転位
- c 瞳孔縮瞳————下転位
- d 瞳孔散瞳————外転位
- e 瞳孔縮瞳————内転位

28 6歳の男児。3歳頃から言葉の発達が悪いということで受診した。初診時のオーディオグラム（図1）と頭部CT（図2）、頭部MRI（図3）を示す。

誤っているのはどれか。

- a 甲状腺腫を伴うことがある。
- b 頭部打撲で難聴が悪化しやすい。
- c ミトコンドリア遺伝子異常が原因である。
- d 重度難聴（90 dB以上）の場合、人工内耳が有効である。
- e 聴力が急激に悪化した時は突発性難聴と同様にステロイド治療が有効である。

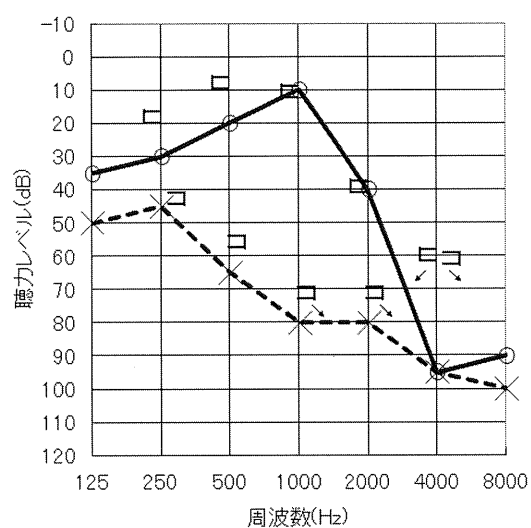


図 1

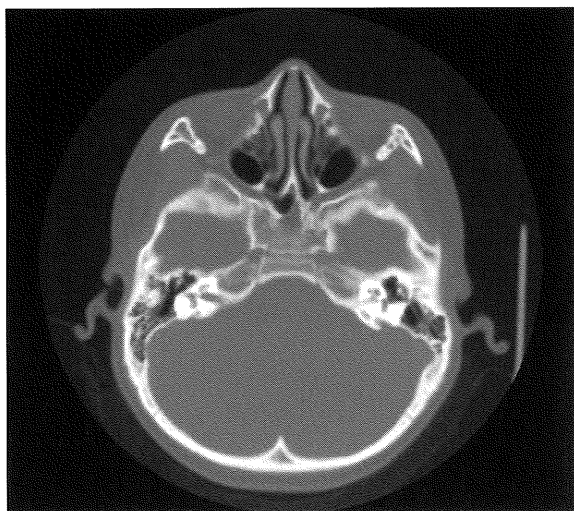


図 2

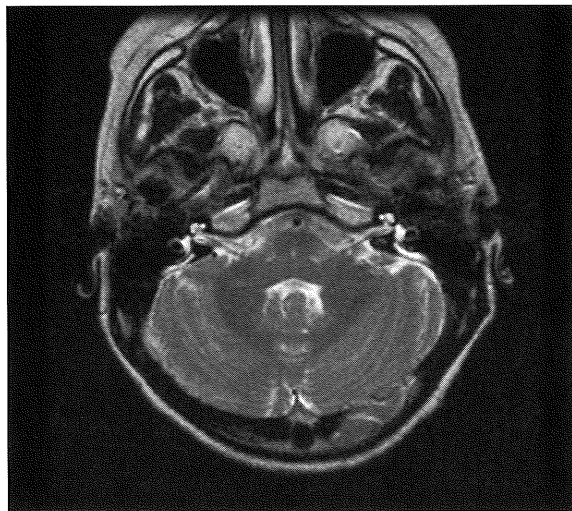


図 3

29 7歳の女児。家族歴は特記なし。発達は正常である。1歳時にBCGを接種している。2歳時よりタイへ転居しており、1週間前に再度日本へ転居となった。今回、微熱と咳嗽を主訴に外来受診となった。ツベルクリン反応をおこなうと、発赤部の長径が35 mmであった。

本児に対する対応として正しいのはどれか。

- a 胸部エックス線写真を確認する。
- b BCGを再度接種する必要がある。
- c BCG接種歴があるので問題ない。
- d ツベルクリン反応を同じ部位で再検査する。
- e ツベルクリン反応を異なる部位で再検査する。

30 日齢0の新生児。40週0日に吸引分娩で出生した。出生5分後の状態を写真に示す。

正しいのはどれか。

- a 低出生体重児である。
- b 酸素投与の適応である。
- c 児頭骨盤不均衡があった。
- d 早期母児接触が望ましい。
- e アプガースコア5分値は、6点である。



写真

31 日本の血液透析療法の現状で正しいのはどれか。

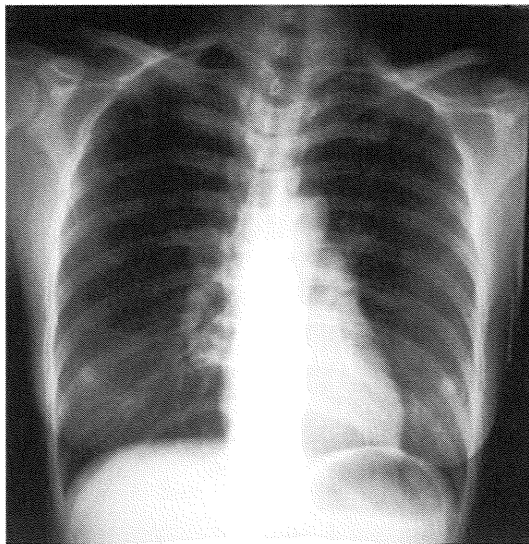
- a 死亡原因のうち感染症の患者数は増加している。
- b バスキュラーアクセスで最も多いのは人工血管である。
- c 維持透析患者のうち糖尿病性腎症の割合は減少している。
- d 新規に血液透析が開始される患者の平均年齢は 55 歳である。
- e 新規導入患者の原因疾患で最も患者数が多いのは慢性糸球体腎炎である。

32 42 歳の女性。主訴は血痰。数年前から労作時呼吸困難が徐々に増強し、数日前から血痰が持続したため、来院した。意識清明、体温 36.6℃、脈拍 88/分、整。血圧 120/72 mmHg。室内気吸入下 SpO₂ 91%、右下肺野で血管性雑音を聴取する。

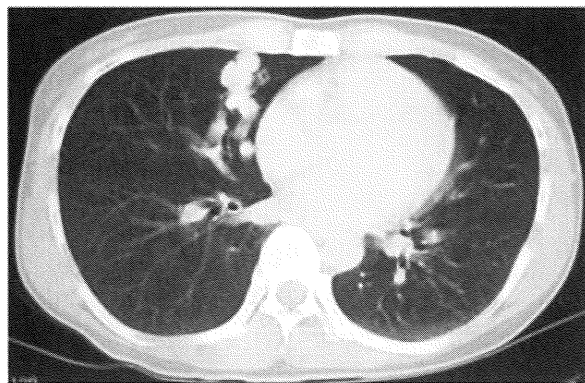
胸部エックス線写真と胸部造影CTを示す。

正しいのはどれか。

- a 後天性のことが多い。
- b 脳膿瘍を合併することがある。
- c 気管支動脈造影検査が有用である。
- d 確定診断にはCTガイド下生検が有用である。
- e 肺動脈と肺静脈の間の左-右シャントである。



胸部エックス線写真

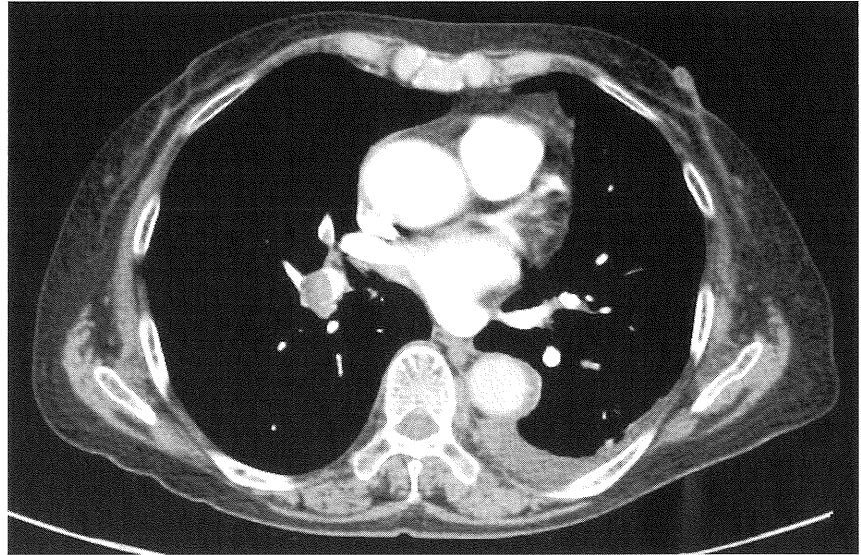


胸部造影CT

33 73歳の女性。主訴は呼吸困難。肺腺癌にて放射線治療後、外来にて経過観察されていた。3日前より全身倦怠感、体動時の呼吸困難を認めるようになった。本日早朝より呼吸困難の増悪を認めたため、当院救急外来を受診した。体温 36.7℃、呼吸数 24 回/分、脈拍 120 /分 整、血圧 133/75 mmHg、室内気吸入下 SpO₂ 84 %、酸素 8 l 吸入下 SpO₂ 91 %。胸部聴診にて II P 亢進。胸部造影CTを示す。

正しい治療はどれか。

- a 抗癌薬
- b 抗凝固薬
- c 抗菌薬
- d ステロイド薬
- e 放射線療法



胸部造影CT

34 視野計を用いた視野測定の結果を図1に示す。

図1の様な視野障害の原因になる部位を、図2から選べ。ただし、Mariotte盲点の所見は正常とする。

- a 1
- b 2
- c 3
- d 4
- e 5

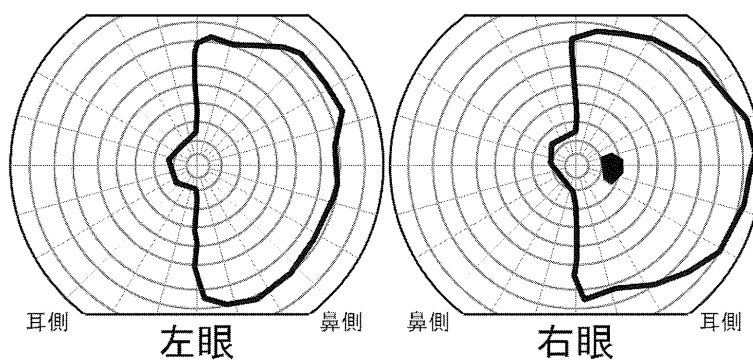


図1

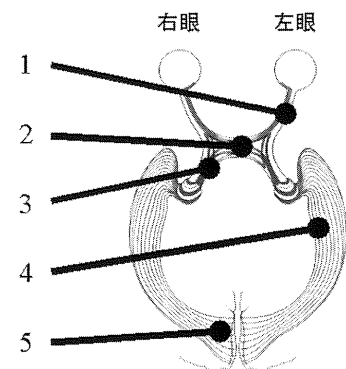


図2

◎指示があるまで開かないこと

24

第5学年

カードコード：505

注意事項

1. マークシートには必要以外のマークおよび記入をしてはならない。これらが守られないときは誤りとして処理される。
2. マークシートには解答の他、必ず以下の事項を記入又はマークすること。
 - (イ) 学年、クラス、学籍番号、氏名を記入し、かつ学籍番号をマークする。
 - (ロ) カードコード：問題の最初のページに今回実施の客観式試験のカードコードが記載されているので、当該コードを必ず記入すること。

カードコード表

本 試 験	実 施 日	カードコード	出題数	試 験 時 間	
	第1日目 2月12日(火)	501	34問	10:00～11:40	(100分)
		502	34問	13:00～14:40	(100分)
		503	34問	15:00～16:40	(100分)
	第2日目 2月13日(水)	504	34問	10:00～11:40	(100分)
		505	34問	13:00～14:40	(100分)
		506	34問	15:00～16:40	(100分)

学籍番号

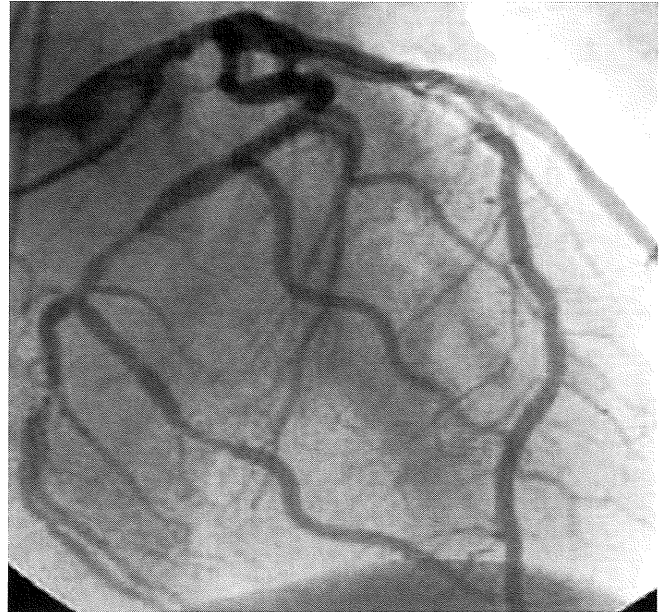
氏名

- 1 閉塞性動脈硬化症について正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 膝下病変に薬剤溶出性ステントが有効である。
 - b 間歇性跛行はFontaine3度以上で出現する。
 - c ABI (Ankle Brachial Index) は1以上となる。
 - d 経皮的血管形成術にステントが用いられている。
 - e Fontaine分類は病期と症状を指標としている。
- 2 インスリン製剤や注射器材の取り扱いについて正しいのはどれか。
- a 注射針は繰り返し使用する。
 - b 使用後の注射針は一般ごみとして処分する。
 - c 使用していない予備のインスリンは冷凍庫で保存する。
 - d 注射を行う前に必ず2単位分の試し打ち（空打ち）を行う。
 - e インスリン内部に血液が混入してもそのまま使用を継続する。
- 3 正しいのはどれか。
- a 進行結腸癌の術後は全症例に化学療法を行う。
 - b 結腸・直腸癌からの転移性肝癌は、手術の適応とならない。
 - c 進行直腸癌に術前補助化学療法を行うのが標準治療である。
 - d 進行結腸癌に対する開腹手術は行わない。
 - e 進行大腸（結腸・直腸）癌の手術は癌を含めた腸管の切除とリンパ節郭清を行う。
- 4 健康施策に関して正しい組合せはどれか。
- a たばこ規制枠組条約——有害影響の警告表示の義務化
 - b がん対策基本法——公共の場における受動喫煙の防止
 - c WHOの提唱するプライマリヘルスケア——主要な伝染病に対する治療の徹底
 - d 第1次国民健康づくり対策——80歳になっても身の回りのことができることが目標
 - e 健康日本21 ——「子ども」「女性」「メタボ対策」などの分野で指標を設定

- 5 52歳の男性。強い胸痛のため救急搬送された。来院時、冷汗が著明で嘔吐を繰り返している。脈拍 40/分、整。血圧 110/80 mmHg。肺野にcoarse cracklesを聴取する。来院直後の心電図にてⅡ、Ⅲ、aVfにてSTの上昇を認めた。緊急冠動脈造影の所見を示す。

治療として**不適切**なのはどれか。

- a 酸素吸入
- b Ca拮抗薬投与
- c 塩酸モルヒネ筋注
- d 緊急冠動脈形成術（PCI）
- e 緊急冠動脈バイパス術

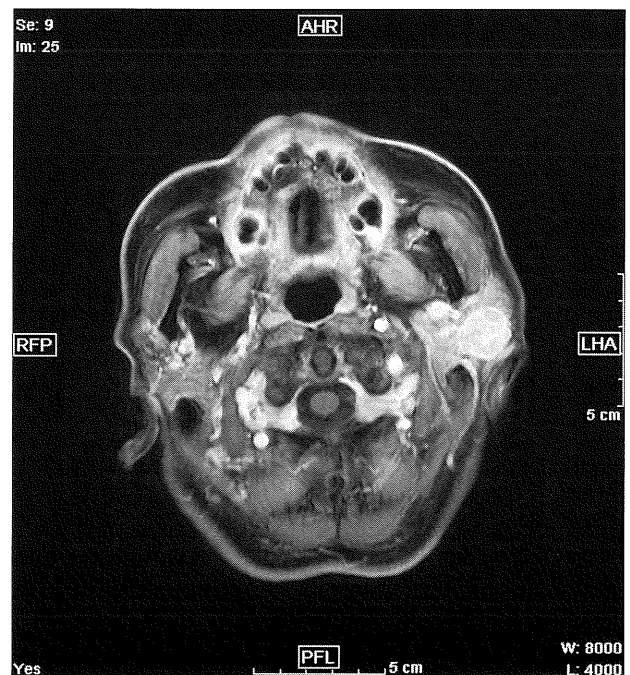


緊急冠動脈造影の所見

- 6 63歳の男性。左顔面神経麻痺を主訴に来院した。半年前から流涙があり、洗顔時に石鹸が左眼に入ることを自覚していた。徐々に左顔面の動きにくさが進行した。両側鼓膜、耳介、外耳道、口腔咽頭に異常所見は認めない。標準純音検査は両側基準値以内、ティンパノグラムA型。MRIを示す。手術を行い組織は唾液導管癌であった。

この患者で来しやすい所見はどれか。

- a シルマー検査で左側涙分泌の低下。
- b 電気味覚検査で左側味覚閾値の低下。
- c あぶみ骨筋反射で左側消失。
- d 額のしわ寄せができない。
- e 強大音が左側で響く。



MRI

7 治療薬と特徴的な副作用・合併症の組合せで誤っているのはどれか。

- a イマチニブ—————筋肉痛
- b L-アスパラギナーゼ —————脾 炎
- c 大量のシタラビン (Ara-C) —————中枢神経障害
- d アントラサイクリン系抗がん薬—————腎毒性
- e ATRA (all-trans retinoic acid)—————発 熱

次の文を読み、8～9の問いに答えよ。

52歳の女性。2か月前より37℃後半の発熱が出現し、近医にて抗菌薬の投薬を受け一時的に解熱するも、投薬中止後再度発熱が出現するとの経過を繰り返していた。5日前より悪寒を伴う38℃台の発熱が出現。2日前にはやや激しい腰痛を認めたが、多忙のため放置。本日突然の激しい頭痛と引き続き嘔吐を認め、徐々に意識混濁が出現したため救急搬送された。

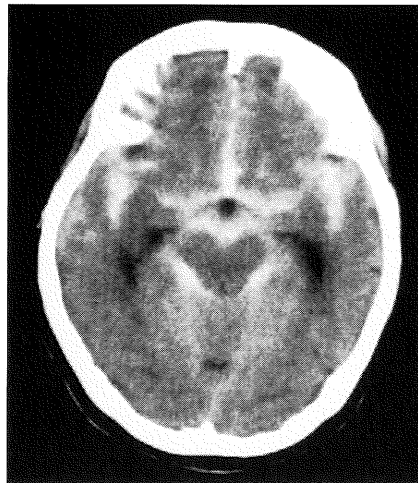
身体所見：意識レベルJCS 100、体温37.8℃。脈拍数104/分。血圧190/78 mmHg。頸部硬直あり。

心尖部領域に最強点を有する汎収縮期雑音と両下肺野にcoarse crackleが聴取された。

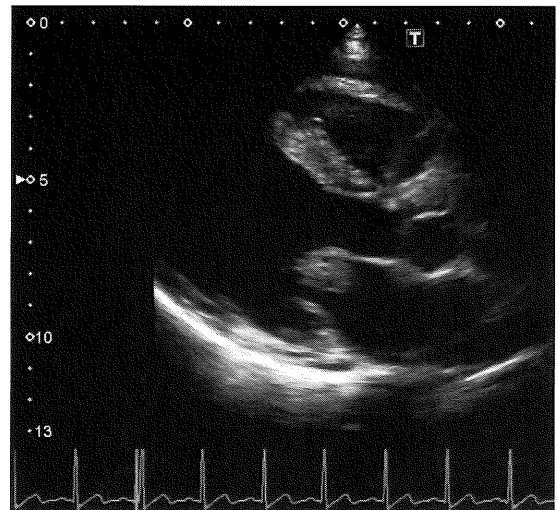
頸静脈怒張や下腿浮腫は認めなかった。

血液検査：白血球12,300/mm³、Hb 10.2 g/dl、血小板23.2万、AST 72 IU/l、ALT 32 IU/l、LD (LDH) 520 IU/l、クレアチンキナーゼ〈CK〉262 IU/l、血液尿素窒素〈BUN〉28 mg/dl、クレアチニン〈Cr〉0.9 mg/dl、CRP 6.2 mg/dl。

頭部単純CT画像および心エコー図を示す。



頭部単純CT画像



心エコー図

8 次に行うべき検査はどれか。

- a 心臓カテーテル検査
- b 脳波検査
- c 骨格筋生検
- d 血液培養検査
- e 下肢静脈エコー検査

9 本例での基礎疾患に関して正しい記載はどれか。

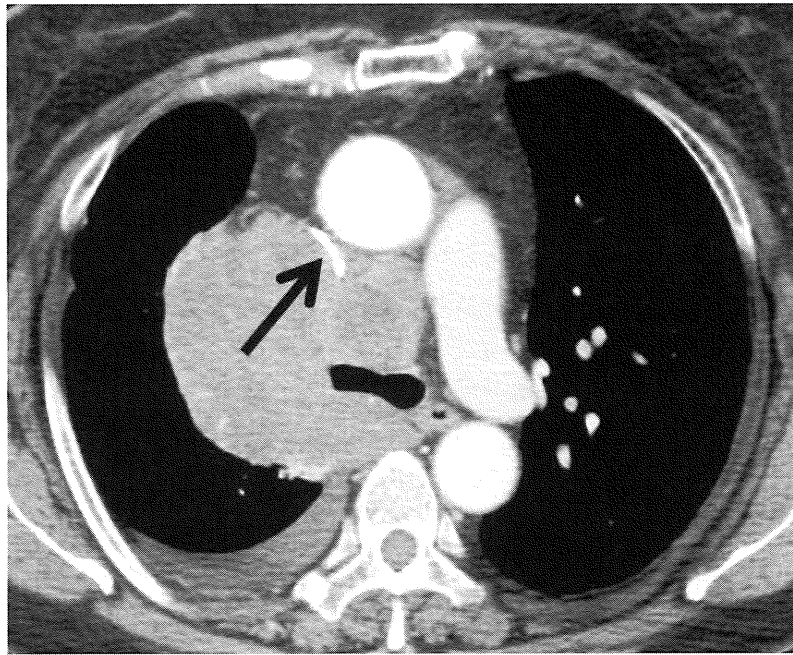
- a 抗菌薬は少量での間歇投与とする。
- b 禁忌疾患がない限り、根治治療として開胸手術が行われる。
- c 抜歯や観血的処置の既往がない症例が存在する。
- d 発症高リスク例に対する予防処置は不要である。
- e 塞栓症の合併には血栓溶解療法が有効である。

10 58歳の女性。小細胞肺癌で通院中に顔面、上肢の浮腫と呼吸困難を認めたために来院した。

胸部造影CTを示す。

矢印で示すのはなにか。

- a 上行大動脈
- b 上大静脈
- c 右上肺静脈
- d 肺動脈
- e 腕頭動脈



胸部造影CT

11 ドレーンについて正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 胸腔ドレーンには開放式ドレーンを用いる。
- b 開放式ドレーンでは胸腔に陰圧をかけることが可能である。
- c 開放式ドレーンは閉鎖式ドレーンと比較して逆行性感染が起こりやすい。
- d 胆嚢摘出術後腹腔内ドレーンから胆汁の排出を認めた場合、ドレーンを抜去してよい。
- e 直腸癌に対する低位前方切除術の術後に腹腔内ドレーンから腸内容の排出を認めた場合、腸管縫合不全を疑う

12 2か月の乳児。自宅の高さ40 cmのソファから転落したことを主訴に、両親に伴われて救急外来を受診した。在胎38週、2,950 gで出生した。体重3,890 g。体温36.2℃。呼吸数40/分。心拍数140/分。整。後頭部に皮下血腫がみられ、右大腿外側に小円形の熱傷瘢痕が3個みられる。

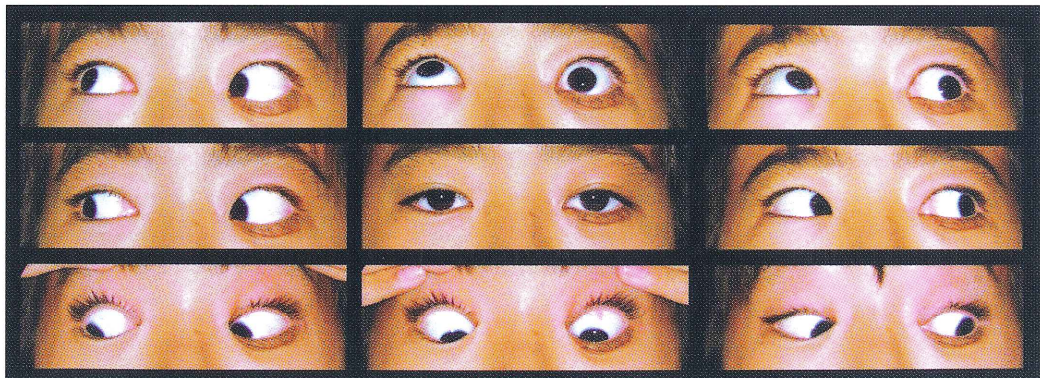
対応として適切でないのはどれか。

- a 頭部CTを行う。
- b 眼底検査を行う。
- c 児童相談所へ連絡する。
- d 両親の態度・言動を観察する。
- e 再診予約をした上で帰宅させる。

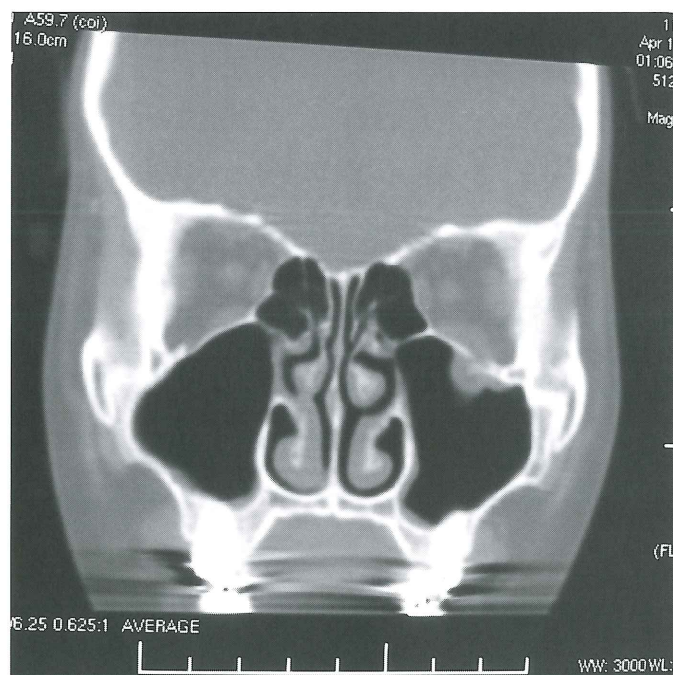
13 14歳の男子。サッカーの試合中、相手の頭部が左眼部にぶつかって受傷した。診察時の眼球運動写真とCT画像を示す。

適切でないのはどれか。2つ選べ。

- a 上転障害がある。
- b 知覚障害は認めない。
- c 下直筋が腫大している。
- d 眼窩下壁の骨折がある。
- e 上顎洞内の血液貯留がある。



眼球運動写真

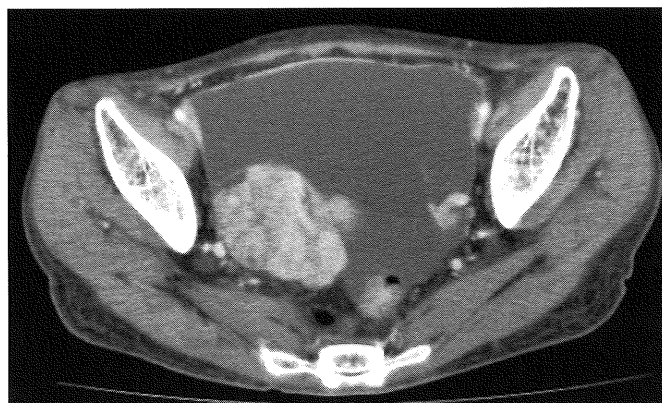


CT画像

- 14 65歳の女性。腹部膨隆を主訴に来院した。1年前に胃癌で胃全摘術を受け、3か月前まで補助化学療法を受けていた。直腸指診で腫瘤を触知しない。免疫学所見：CEA 36 ng/ml（基準5以下）。腹部超音波検査で腹水を認める。腹部造影CTを示す。

診断はどれか。

- a Wilms腫瘍
- b Meigs症候群
- c Virchow転移
- d Schnitzler転移
- e Krukenberg腫瘍



腹部造影CT

- 15 58歳の男性。慢性糸球体腎炎のため50歳時より血液透析を施行している。今回、妻（56歳）より腎臓の提供の申し出があったため泌尿器科外来を受診した。

血液型は夫がA型、妻がB型であった。

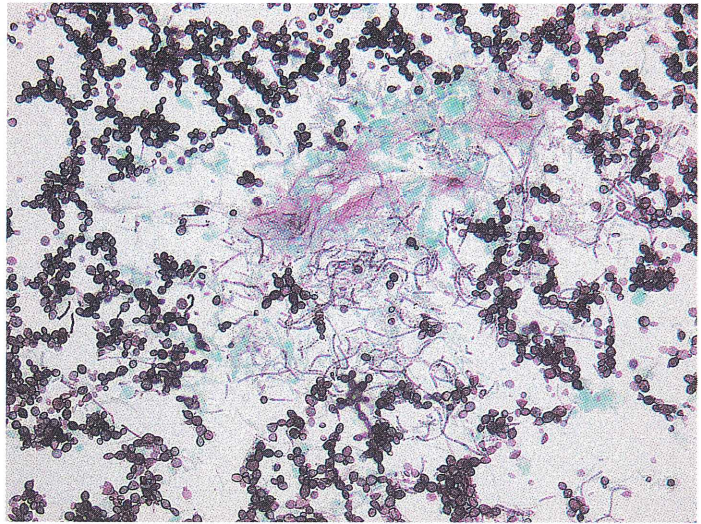
この夫婦の組合せで腎移植を施行する場合正しいのはどれか。

- a 血液型不適合腎移植であるため移植が不可能である。
- b 血液型不一致生体腎移植であるため移植が可能である。
- c 生体腎移植をおこなう場合免疫抑制剤は術後から開始する。
- d 血漿交換をおこない抗体価が低下すれば腎移植が施行可能である。
- e 腎臓移植の前にレシピエントの脾臓摘出をおこなわなければならない。

16 写真は、グロコット染色された組織である。

正しいのはどれか。

- a カンジダ症
- b カリニ感染症
- c 糸状菌感染症
- d クリプトコッカス症
- e ヘリコバクター・ピロリ感染症



写真

17 49歳の女性。意識障害で搬送された。夫の話では、2時間前まで全く元気であり、急に頭痛を訴え、1回嘔吐した後、ただちに意識を失った。痙攣や失禁はなかった。既往歴はない。飲酒や喫煙はせず、常用薬や違法薬物の使用もない。体温 36.0℃、呼吸 16 / 分、脈拍 100 / 分、血圧 120/80 mmHg。胸部聴診所見で異常を認めない。項部硬直を認める。腱反射は両側とも正常である。

次に行う検査として適切なのはどれか。

- a 頭部CT
- b 脳MRA
- c 脳MRI
- d 腰椎穿刺
- e 脳血管造影

18 8歳の男児。両親と妹との4人暮らし。小学校の担任の先生から両親に対し、「授業についていけない。精神科で相談してきてほしい」と話があり、両親と共に来院した。入室時から挨拶もせず、机のものを触りだし、両親に咎められてやっと着席し、促されて挨拶した。椅子の上でも足をぶらぶらさせて落ち着かず、すぐに立ち上がろうとしたり、診察の最後の方にはウロウロし始めた。学校でも授業中歩き回り、先生の言う事を聞かないため、授業についていけず、遊びや行事などもルールが守れないという。

この症例の疾患について正しいのはどれか。

- a 知能の遅れが進行する。
- b 高率で自閉性障害に移行する。
- c 6歳以前では、診断は困難である。
- d 多くは乳児期に発達の遅れが見られる。
- e 男児と女児では、ほぼ同じ比率でみられる。

19 NST（栄養サポートチーム）の医療活動における栄養状態の指標として**適切でない**のはどれか。

- a アルブミン
- b プレアルブミン
- c 血清アミロイドA
- d トランスフェリン
- e レチノール結合蛋白

20 糸球体性血尿を示す病歴を**2つ**選べ。

- a 排尿時に下腹部痛を伴う。
- b 微熱、鼻汁のあった1週間後に赤褐色の尿が出た。
- c 太ももやふくらはぎの筋肉痛を伴い、尿は赤ワインのようだ。
- d のどの痛みがあった日の午後に、コーヒーのような黒い尿が出た。
- e 尿意があってもなかなか出ないし、排尿は途切れ途切れである。

21 56歳の男性。健診で糖尿病と心房細動を指摘されているが放置していた。工作中に突発性の回転性めまいと悪心、歩行時のふらつきが出現し、受診した。

受診野の神経所見は、意識は清明で、左眼裂狭小と縮瞳あり、全方向に定方向性回旋性眼振がみられた。上下肢の麻痺はないが、歩行時に左へ偏倚がみられた。また感覚障害を認めた。

頭部MRAでは左椎骨動脈の閉塞を認めた。

この症例でみられる診察所見はどれか。

- a 右顔面の発汗低下
- b 左顔面の深部覚障害
- c 右への口蓋垂の偏位
- d 左上下肢の表在覚障害
- e 右の鼻指鼻試験拙劣

22 72歳の男性。検診の腹部超音波検査で膵の嚢胞性病変を指摘され、精査目的で来院した。

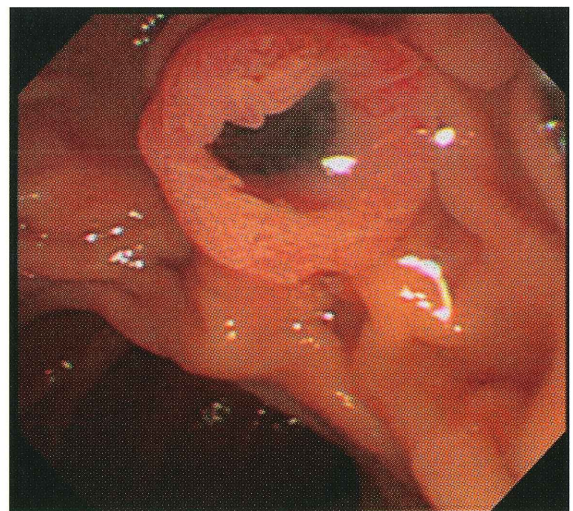
MRCP（磁気共鳴膵胆管造影法）写真と十二指腸の内視鏡写真を示す。

診断はどれか。

- a 膵 癌
- b 膵仮性嚢胞
- c 粘液性嚢胞腫瘍
- d 膵神経内分泌腫瘍
- e 膵管内乳頭粘液性腫瘍



MRCP



内視鏡写真

23 73歳の女性。発熱、呼吸苦を主訴に来院した。

現病歴：30年前から関節リウマチの診断で、抗リウマチ薬と副腎皮質ステロイドで加療されていた。3年前よりメトトレキサートが開始されたが効果不十分であり、6か月前よりTNF- α 阻害薬が開始されていた。胸部エックス線写真で異常を指摘されたことはない。2週間前から軽度の咳嗽を認め、3日前より労作時呼吸苦が出現し、次第に増悪するために受診した。

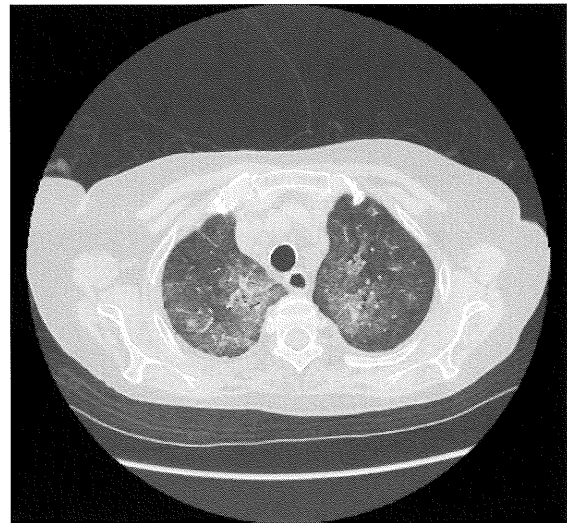
既往歴：60歳から糖尿病で内服治療中。

現 症：意識は清明。身長156 cm、体重56 kg。体温37.6℃、呼吸数28/分、脈拍90/分、整。血圧105/76 mmHg。経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉89%（室内気）。口腔内に異常を認めない。心音と呼吸音に異常を認めない。

検査所見：白血球7,300。CRP 6.82 mg/dL。HbA1c 6.8%、総蛋白6.2 g/dL、尿素窒素30 mg/dL、クレアチニン1.03 mg/dL。胸部単純CTを示す。

この患者で予想される検査所見はどれか。2つ選べ。

- a 血清KL-6 高値
- b 血清カンジダ抗原陽性
- c 血清 β -Dグルカン陽性
- d レジオネラ尿中抗原陽性
- e 血清トリグリセライド低値



胸部単純CT

24 生後4日の新生児。在胎39週、3,200 g、Apgarスコア9点（1分）で出生した。哺乳は良好で、排便、排尿も認められている。

この児にあてはまらない明らかな異常所見はどれか。

- a 心拍数68/分
- b 呼吸数43/分
- c 大泉門1.5×1.5 cm
- d わずかな可視的黄疸
- e 右肋骨弓下に肝を1 cm触知

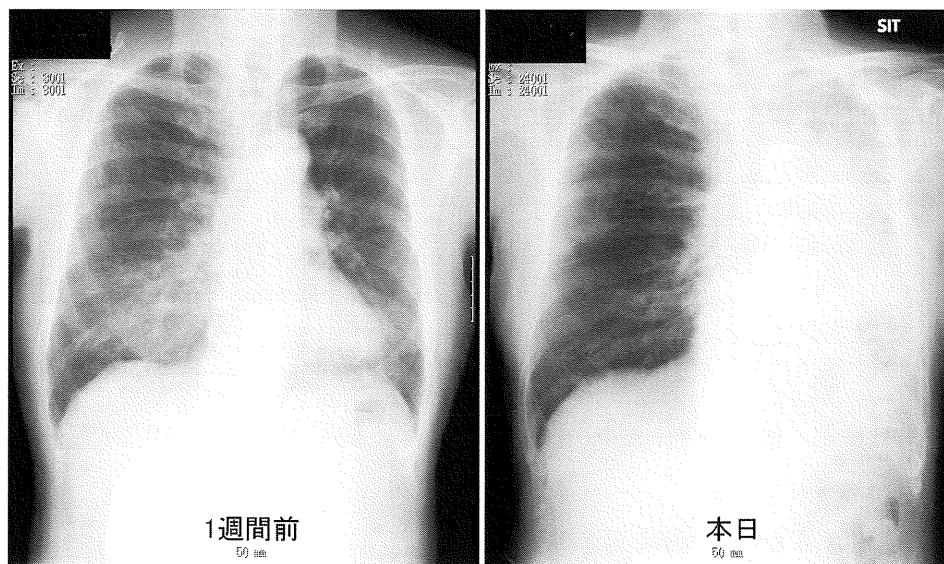
25 子宮頸部細胞診の採取から標本の作成にあたり**適切でない**のはどれか。

- a 綿球などを使って、頸管粘液や血液を十分に除去する。
- b 扁平円柱上皮境界（SCJ）と頸管の両方からまんべんなく細胞採取する。
- c 細胞採取後ただちにスライドガラスに塗布する。
- d 100 %エタノールでただちに固定する。
- e 固定後おそくとも1週間以内にパパニコロウ染色を行う。

26 77歳の男性。主訴は呼吸困難。15年来、糖尿病、高血圧で通院中。1か月前より喘鳴と労作時呼吸困難を認め、徐々に増強した。1週間前に近医を受診し、胸部エックス線撮影を受け、喘息と診断され治療が開始された。昨日から呼吸困難がさらに増強し、左肩に放散する胸痛を認めたため、今朝救急外来を受診した。1週間前と今回の胸部エックス線写真を示す。

診断のためにまず行うべきなのはどれか。

- a 胸水検査
- b 胸部CT検査
- c 気管支鏡検査
- d 喀痰細胞診検査
- e 喀痰細菌学的検査



胸部エックス線写真

27 38歳の女性。健康診断で貧血を指摘され来院した。10年くらい前より次第に労作時息切れなどの貧血症状はあったが放置していた。

眼瞼結膜に貧血を認めるが、眼球結膜に黄染なし。

血液検査所見：白血球数 $4,000/\mu\text{l}$ 、赤血球数 $452\text{万}/\mu\text{l}$ 、ヘモグロビン 6.7 g/dl 、ヘマトクリット 26.4% 、血小板数 $42\text{万}/\mu\text{l}$ 、網赤血球 0.9% 。

この症例の検査結果としてもっとも当てはまるのはどれか。

- a 直接クームス陽性
- b 血清フェリチン低値
- c ビタミンB12低値
- d ハプトグロビン感度以下
- e 抗パルボウイルスB19IgM抗体陽性

次の文を読み、28～29の問いに答えよ。

12歳の女兒。小学4年生頃より身長が伸びなくなり、1年前から視力低下に気づいていたが放置。最近になって全身倦怠感の悪化とともにのどが渇くようになり、頻繁にトイレに通うようになった。受診時造影MRI矢状断を示す。

28 この患者に認められる可能性の高い検査所見はどれか。2つ選べ。

- a 両鼻側半盲を認める。
- b 頭部CTで石灰化を認める。
- c 低ナトリウム血症を認める。
- d 成長ホルモン分泌過剰を認める。
- e 副腎皮質刺激ホルモン分泌低下を認める。

29 診断はどれか。

- a 胚 腫
- b 髄膜腫
- c 下垂体腺腫
- d 頭蓋咽頭腫
- e 視神経膠腫



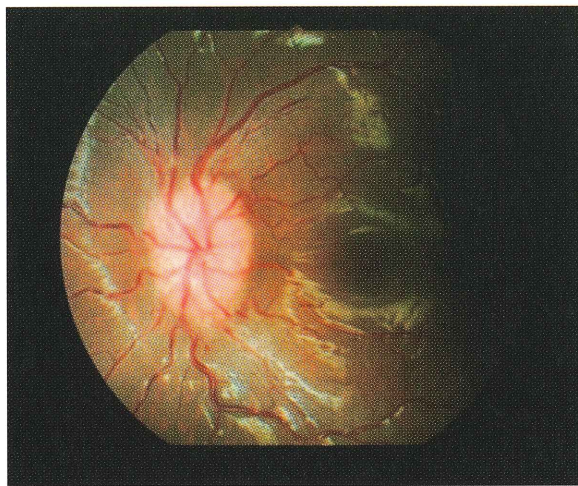
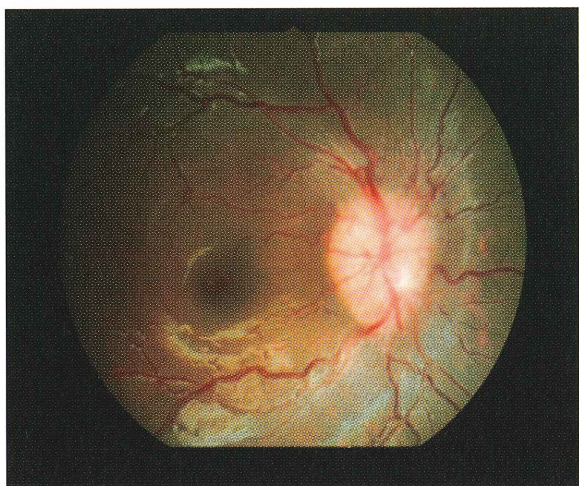
受診時造影MRI矢状断

30 50歳の女性。3か月前から霧がかかったように見えるとの主訴で来院した。

視力は両眼とも矯正1.0。前眼部・中間透光体・眼圧に異常は認めなかった。眼底所見を示す。

正しいのはどれか。

- a 視力障害は晩期でも見られない。
- b マリオット盲点が拡大する。
- c 眼球運動痛がある。
- d 色覚異常がある。
- e 経過観察でよい。



眼底所見

- 31 70歳の女性。右変形性膝関節症の診断で数年前から関節内注射を行っていた。2日前より右膝関節の疼痛、腫脹および熱感が増強したため来院した。本日37.9℃の発熱を認めた。エックス線（図）を施行するも以前と比べ大きな変化はなかった。

確定診断に最も有用な検査はどれか。

- a 関節液培養検査
- b 採血検査
- c 骨シンチ
- d MRI
- e CT



図

- 32 62歳の男性。身長169 cm、体重78 kg。既往歴に高血圧と糖尿病があり、カルシウム拮抗薬とαグルコシダーゼ阻害剤を内服している。血圧は150～160/80～90 mmHg、ヘモグロビンA1Cは6.8%（国際基準）である。他には血液検査、心電図、胸部エックス線写真に異常はない。胆石症に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を行うため、気管挿管下の全身麻酔を計画している。

この患者の全身麻酔に用いない薬剤はどれか。2つ選べ。

- a レミフェンタニル
- b プロポフォール
- c ヘパリン
- d 亜酸化窒素
- e ロクロニウム

33 25歳の男性。微熱と鼻汁を認めたため14日前から市販の総合感冒薬を内服していた。数日前より全身に皮疹が出現したため入院した。入院後、体温が39℃に上昇し、紅斑が急速に拡大した。入院時（図1）と入院3日後（図2）の皮膚所見を示す。

この患者への対応として適切でないのはどれか。

- a 輸液管理
- b 眼科受診
- c 解熱剤投与
- d クーリング
- e ステロイド剤投与

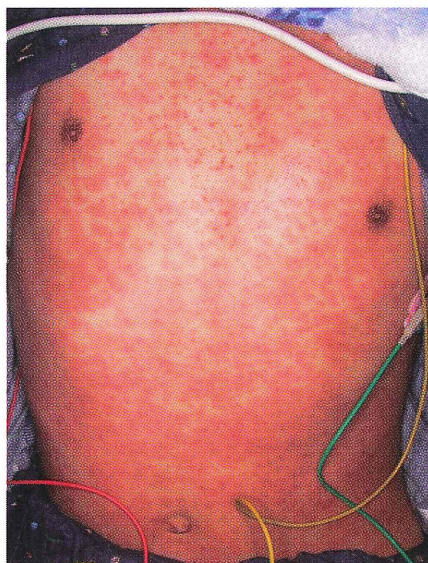


図1



図2

34 服用時間が不明の急性中毒患者への対応で誤っているのはどれか。

- a 中毒物質のスクリーニング
- b 吸収の阻止
- c 排泄の促進
- d 全身管理
- e 胃洗浄

カードコード：506

注意事項

1. マークシートには必要以外のマークおよび記入をしてはならない。これらが守られないときは誤りとして処理される。
2. マークシートには解答の他、必ず以下の事項を記入又はマークすること。
 - (イ) 学年、クラス、学籍番号、氏名を記入し、かつ学籍番号をマークする。
 - (ロ) カードコード：問題の最初のページに今回実施の客観式試験のカードコードが記載されているので、当該コードを必ず記入すること。

カードコード表

	実 施 日	カードコード	出題数	試 験 時 間
本 試 験	第1日目 2月12日(火)	501	34問	10:00～11:40 (100分)
		502	34問	13:00～14:40 (100分)
		503	34問	15:00～16:40 (100分)
	第2日目 2月13日(水)	504	34問	10:00～11:40 (100分)
		505	34問	13:00～14:40 (100分)
		506	34問	15:00～16:40 (100分)

学籍番号

氏名

1 64歳の女性。腹部膨満感を主訴に来院した。

現病歴：約20年前にB型肝炎の指摘を受け、10年前に肝硬変と診断されている。最近になって食欲が低下し腹部の膨満感を自覚するようになった。近医にて利尿薬の投与を受けるも改善しないため精査加療目的で紹介受診となった。

既往歴：特記すべきことなし。

生活歴：飲酒は機会飲酒程度。喫煙歴なし。

家族歴：妹と姉もB型肝炎。

現 症：意識は清明。身長150 cm、体重53 kg。体温36.4℃。呼吸数17 /分。脈拍80 /分、整。血圧100/60 mmHg。眼瞼結膜に貧血なし。眼球結膜に黄疸なし。腹部は膨隆している。下肢に浮腫を認める。

検査所見：尿に異常を認めない。血液学所見：赤血球380万、Hb 12.2 g/dl、Ht 32%、白血球2,800、血小板6万。生化学所見：総蛋白6.2 g/dl、アルブミン3.2 g/dl、総ビリルビン1.0 mg/dl、プロトロンビン(%)75%、AST 50 IU/l、ALT 40 IU/l、HBs抗原陽性。

腹部造影CT写真を示す。

この症例の病態について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 門脈本幹に腫瘍栓を認める。
- b 肝動脈塞栓術の適応がある。
- c 腹腔内に多量の腹水を認める。
- d 経皮的ラジオ波焼灼術の適応となる。
- e 直ちに経皮経肝的な減黄処置が必要である。



腹部造影CT写真

- 2 20歳の男性。3週間前に咽頭痛があった。2週間前より持続する両側の手指、手首、肘の関節痛および1週間前から持続する39℃台の弛張熱を主訴に来院した。体温39.2℃、頸部リンパ節腫脹を認める。発熱時に一過性に手指から手背に紅色の発疹を認める（写真）。血液検査：白血球13,300（好中球86.0%）、生化学検査：ALT 166 IU/l、LDH 645 IU/l（基準119～229）、CRP 13.4 mg/dl。手指から手背の発疹の写真を示す。

この疾患でみられるのはどれか。

- a 低補体価
- b 抗核抗体陽性
- c 血清フェリチン高値
- d リウマトイド因子陽性
- e 抗好中球細胞質抗体陽性

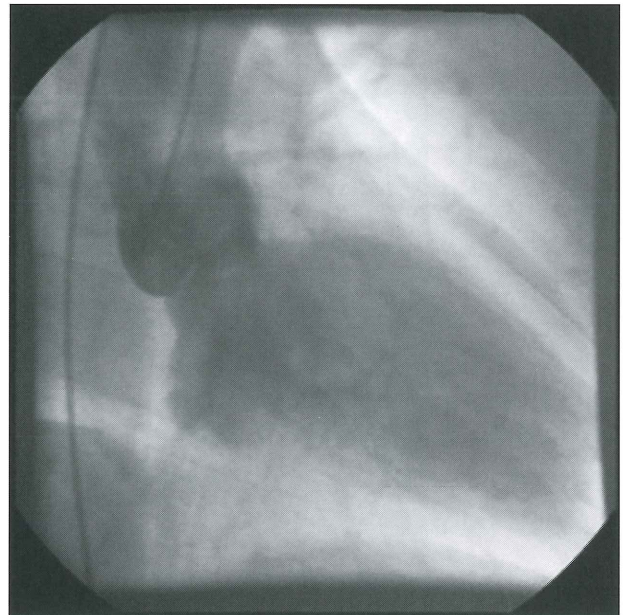


手指から手背の発疹の写真

- 3 45歳の男性。会社の健康診断にて高血圧を指摘され来院した。脈拍80/分、整。血圧162/48 mmHg。胸骨左縁第3肋間を最強点とするⅡ/Ⅵ度の拡張期雑音を聴取する。大動脈造影検査を示す。

この疾患で拡張期雑音を聴取しやすくするための手技はどれか。

- a 下肢を挙上させる。
- b 右側臥位にさせる。
- c 左側臥位にさせる。
- d 座位で上半身を前傾させる。
- e 手を握ったり開いたりさせる。



大動脈造影検査

- 4 64歳の女性。既往歴、家族歴、アレルギー歴は特記すべきことはなし。現在夫との二人暮らし。1年半前頃から忘れっぽくなり、同じところを何度も掃除したり、食事の支度を繰り返したりするようになった。家に閉じこもりがちになり、夫が「おかしいがどうしたのか」と声をかけるも、「おかしくはない。どうもしない。」と病識はまるでなかった。そのうちに話しかけても返事をしなくなったり、「これこれこれこれ…これは…」といったしゃべり方をするようになった。このため夫に連れられ医療機関を受診したが、診察室でも従命に従えず、すぐに立ち上がったり、医師の器具を勝手に手に取ろうとした。何を質問しても、初めに聞いた自分の名前を答えることがほとんどで、会話にならなかった。運動機能に明らかな障害はみられなかった。

診断はどれか。

- a Alzheimer 病
 - b 脳血管性認知症
 - c 前頭側頭型認知症
 - d レビー小体型認知症
 - e Creutzfeldt-Jakob 病
- 5 動くものを追視するとき頭を左右に動かし、腹這いにすると頭を上⁴⁵℃挙げ、あやすと笑い、泣かずにアーとかウァと声することができる。お座りはできない。

この乳児に最もふさわしい年齢はどれか。

- a 1 か月
 - b 3 か月
 - c 6 か月
 - d 9 か月
 - e 12 か月
- 6 アテローム血栓性脳梗塞の原因として、最も可能性の高い頸動脈超音波検査所見はどれか。
- a 狭窄率 75 %
 - b 潰瘍型プラーク
 - c 石灰型プラーク
 - d Max-IMT 値 3.0 mm
 - e パルス・ドプラーの左右差

次の文を読み、7～9の問いに答えよ。

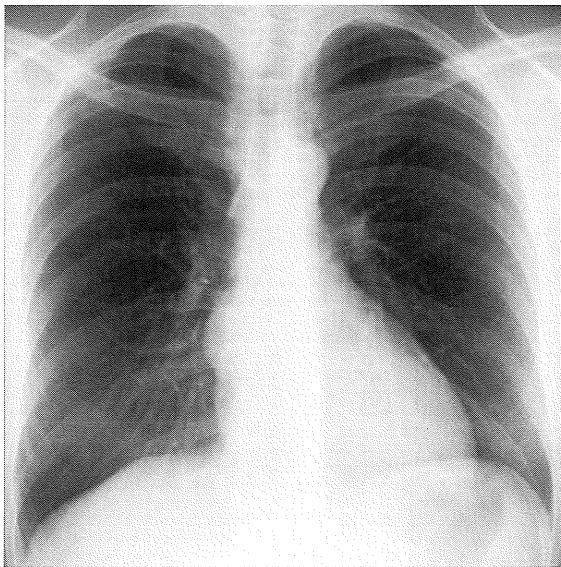
54歳の男性。左眼瞼下垂、嚥下困難を主訴に来院した。

現病歴：4か月前から左眼瞼下垂を自覚し、3日前より嚥下困難を自覚するようになった。特に、午後になると疲労が増悪する。

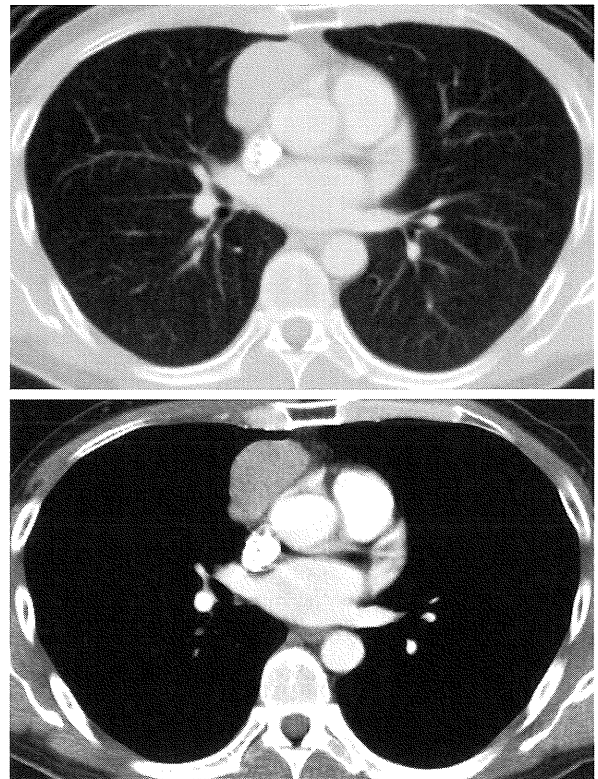
既往歴：特記事項なし。

現 症：意識は清明。身長170 cm、体重70 kg。体温36.7℃。呼吸数15回/分。脈拍70回/分、整。血圧120/72 mmHg。瞳孔は左右同大で対光反射は正常である。頸部屈筋と四肢近位筋に筋力低下を認め、握力は両側22 kg。筋萎縮はなく、深部腱反射は正常。感覚障害と自律神経障害はない。

検査所見：尿所見：蛋白(－)、糖(－)。血液所見：赤血球380万、Hb 12 g/dL、Ht 35%、白血球8,200。血清生化学所見：総蛋白6.5 g/dL、アルブミン5.3 g/dL、総ビリルビン0.4 mg/dL、AST 32 IU/L、ALT 28 IU/L、LDH 205 IU/L (基準119～229)、CRP 0.1 mg/dL。胸部エックス線写真真正面像、胸部造影CTを示す。



胸部エックス線写真真正面像



胸部造影CT

7 考えられる疾患はどれか。

- a 奇形腫
- b 胸腺癌
- c 胸腺腫
- d 甲状腺腫
- e 悪性リンパ腫

8 適切な治療法はどれか。

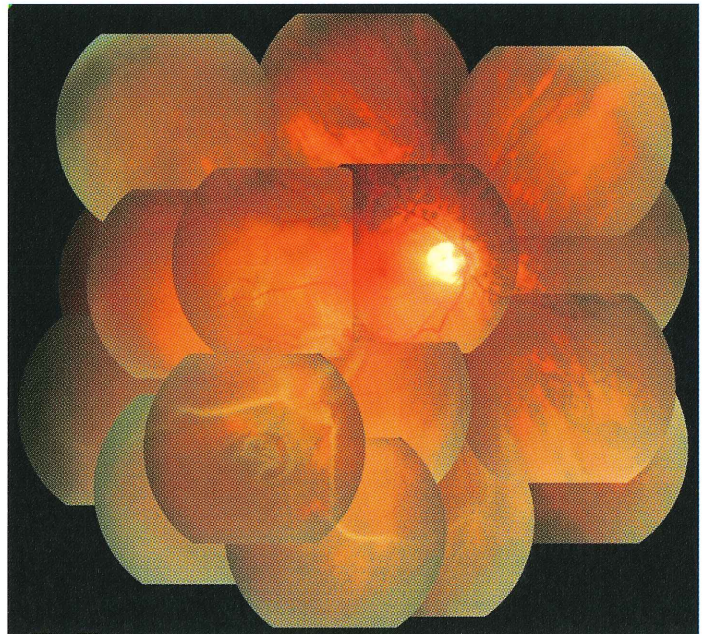
- a 手術
- b 経過観察
- c 免疫抑制薬
- d 放射線治療
- e 抗がん薬治療

9 合併しやすい疾患はどれか。

- a 慢性骨髄性白血病
- b 骨髄異形成症候群
- c 高 γ グロブリン血症
- d 自己免疫性赤芽球瘍
- e 筋委縮性側索硬化症

- 10 56歳の男性。3日前より視野異常を自覚したため来院した。3週間より右眼の飛蚊症と光視症とを自覚している。視力は、右眼 0.06（矯正不能）、左眼 1.2（矯正不能）。右眼の眼底写真を示す。治療法はどれか。

- a 線維柱帯切除術
- b 全層角膜移植術
- c 強膜バックリング術
- d VEGF 阻害剤硝子体内注射
- e トリアムシノロン硝子体内注射

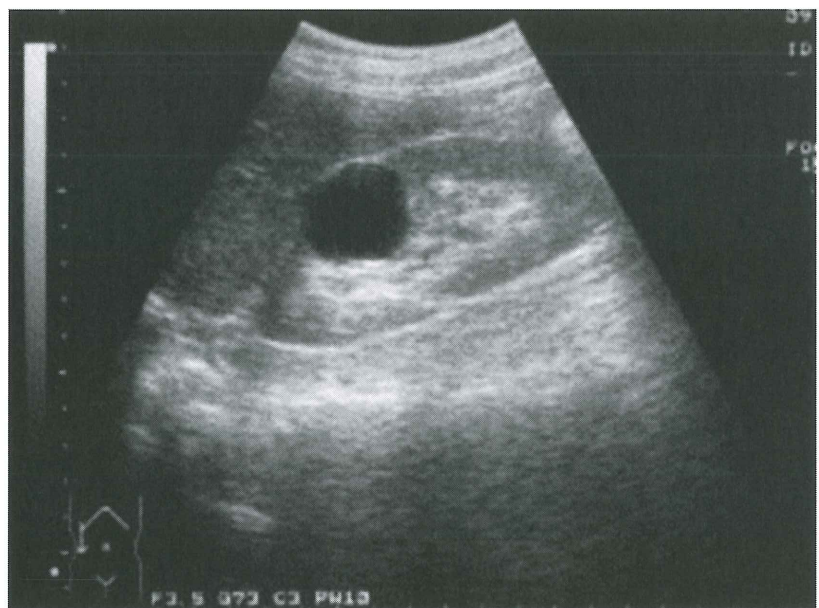


右眼の眼底写真

- 11 54歳の男性。検診で尿潜血を指摘され当院を受診した。患者は無症状である。当院での超音波検査を示す。

正しい治療はどれか。

- a 経過観察
- b 腎摘除術
- c 腎瘻造設術
- d のう胞穿刺吸引
- e 尿管カテーテル留置



超音波検査

12 56歳の男性。肺癌で治療中である。意識障害で救急搬送された。傾眠がちで、時間と場所に対する失見当識がある。心電図でQT間隔が短縮している。

初期対応として適切なのはどれか。

- a 生理食塩水静注
- b カルシトニン皮下注射
- c ビスホスフォネート静注
- d 副腎皮質ステロイド静注
- e サイアザイド利尿薬内服

13 80歳の女性。起立困難と脱水を主訴に入院となった。身長は150 cm、体重は40 kgで糖尿病や腎障害はない。

褥瘡の予防について、**不適切**なのはどれか。

- a 皮膚を湿潤に保つ。
- b 3時間おきに体位変換を行う。
- c 体圧分散マットレスを用いる。
- d ブレーデンスケールをつける。
- e 食事により栄養状態の改善をはかる。

14 72歳の男性。2年前より徐々に動作がゆっくりになり、姿勢が悪いと家族に指摘され、受診した。

受診時の神経所見では、表情に乏しく、前頭部を叩打するとその度に瞬目を繰り返す。脳神経所見に異常はなく、Barré徴候は上下肢とも陰性であった。

四肢の関節を他動的に屈曲伸展させると、いずれも抵抗があった。座位で膝上に置いた左手の手指が粗大に規則的にふるえていた。

協調運動では企図振戦や測定障害はなかったが、動作が緩慢であった。

立位は前傾で膝も屈曲傾向を示し、歩行は小刻みで両手の腕ふりが不良だった。

この症例で**みられない**所見はどれか。

- a 仮面様顔貌
- b 四肢筋痙直
- c 安静時振戦
- d Myerson徴候
- e 姿勢反射障害

15 38歳の男性。10日ほど前から発熱、咳嗽と膿性痰を認め、改善しないため来院した。喫煙歴なし。意識清明。体温 38.8℃。呼吸数 33/分。脈拍 100/分、整。血圧 120/72 mmHg。SpO₂ 87%（室内気吸入下）。右下肺野に coarse crackles を聴取する。

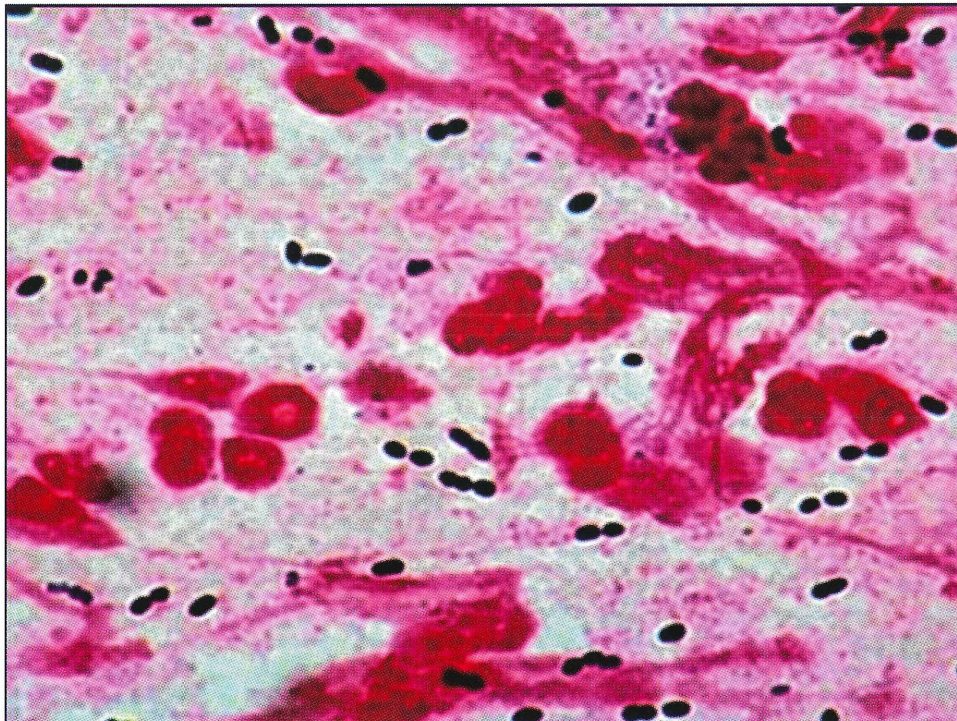
血液所見：白血球 12,600（分葉核 + 桿状核球好中球 80%、好酸球 0%、好塩基球 1%、単球 6%、リンパ球 13%）、Hb 11.2 g/dL、Ht 32%、血小板 26 万。

血液生化学所見：総蛋白 7.1 g/dL、アルブミン 3.7 g/dL、尿素窒素 26 mg/dL、クレアチニン 0.7 mg/dL、総ビリルビン 0.9 mg/dL、AST 27 IU/L、ALT 45 IU/L。免疫学所見：CRP 18.6 mg/dL。胸部エックス線写真では、右下肺野に大葉性の浸潤影を認める。

喀痰塗抹グラム染色標本を示す。

適切な治療はどれか。

- a 抗結核薬内服
- b 抗真菌薬点滴静注
- c β ラクタム系抗菌薬内服
- d β ラクタム系抗菌薬点滴静注
- e アミノグリコシド系抗菌薬点滴静注



喀痰塗抹グラム染色標本

次の文を読み、16～17の問いに答えよ。

56歳の男性。生来健康。1か月前に右頸部にしこりがあることに気づいた。2週間前頃より38℃台の発熱が夕刻にみられる日が多く、また寝汗もほぼ毎晩みられるようになったため、外来を受診した。

現症：右頸部に3×4 cmのリンパ節を触知した。肝1横指、脾臓を2横指触知した。紫斑なし。
体温37.7℃。

血液検査：赤血球480万、Hb 13.1 g/dL、白血球4,400、血小板26.9万、白血球分画 St 1%、Seg 59%、Ly 27%、Mono 6%、Eo 6%、Ba 1%。

血液生化学所見：総蛋白7.6 g/dL、Alb 4.3 g/dL、AST 25 IU/L、ALT 35 IU/L、LDH 350 IU/L（基準110～220）、ALP 234 IU/L、尿素窒素11.8 mg/dL、Cr 0.7 mg/dL、CRP 2.3 mg/dL。

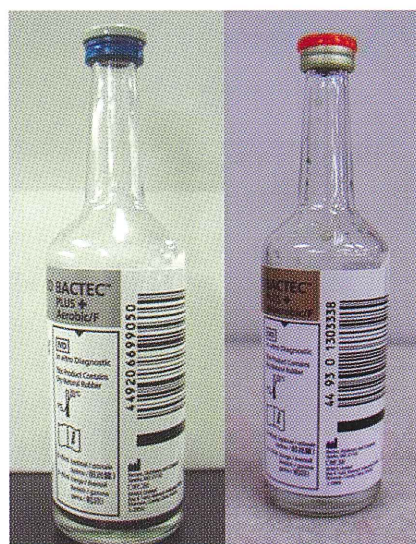
臨床経過：頸部リンパ節生検により、び慢性大細胞型B細胞性リンパ腫と診断され、R-CHOP療法が開始された。第1クール、第5病日からは発熱もみられなくなった。第7病日から5日間、皮下注射を行った。第2クールの第4病日夕刻に悪寒、38.5℃の発熱をみた。感染症を疑い、感染巣を調べるため、採血、胸部エックス線撮影を行った。

16 皮下注射の種類はどれか。

- a G-CSF
- b M-CSF
- c エリスロポエチン
- d トロンボポエチン
- e インターロイキン-11

17 図は、発熱時に行う検査用ボトルである。正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 好気性菌用と嫌気性菌用のボトルである。
- b 血液培養用であり、動脈血採取が望ましい。
- c 検体は、氷冷して速やかに検査室へ提出する。
- d 採血は、時間をおかずに穿刺部位を変えて、2セットで行う。
- e 採血した血液をボトルに注入する時、新しい針に取り換える。

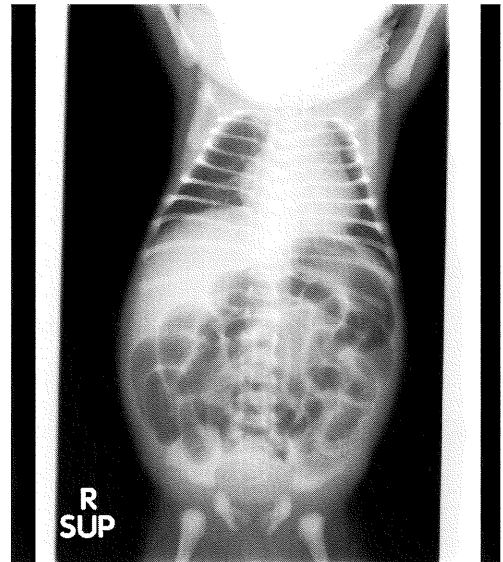


図

- 18 日齢2の新生児。哺乳不良、胆汁性嘔吐を主訴に来院した。在胎40週、出生体重3,000gで経膈分娩で出生、アプガールスコアは1分8点、5分10点であった。生後36時間に初回胎便排泄を認めた。来院時エックス線写真を示す。

この患児に当てはまるのはどれか。2つ選べ。

- a 経鼻胃管は食道で反転する。
- b 量を制限して哺乳を開始する。
- c 注腸造影検査が診断に有用である。
- d 血清ビリルビンの測定が必要である。
- e 超音波検査を行うと肥厚した幽門が描出される。



エックス線写真

- 19 吸引分娩の要約を2つ選べ。

- a 破水後
- b 子宮口全開大
- c 膀胱、直腸の充満
- d 児頭回旋異常
- e 産瘤形成

- 20 21歳の女性。生来健康であった。数週間前からの微熱と咳を主訴に来院した。胸部CTを示す。

この疾患について、特徴的なCT所見はどれか。2つ選べ。

- a 気管支拡張
- b 空洞を伴う結節
- c 淡く不明瞭な粒状影
- d 地図状のすりガラス陰影
- e 下肺野優位の病巣の分布



胸部CT

21 15歳の女子。背部変形を主訴に来院した。背部の写真を示す。

認められる臨床所見はどれか。

- a カフェオレ斑
- b 翼状肩甲
- c 肋骨隆起
- d 漏斗胸
- e 円背



背部の写真

22 メジカルコントロールについて正しいのはどれか。

- a 除細動実施時のエネルギー量の指示
- b 救急救命士の特定行為の実施
- c 末梢静脈路確保の手技の教育
- d 酸素投与の必要性の指示
- e 血糖測定

23 血中半減期のもっとも短いのはどれか。

- a GnRH
- b LH
- c FSH
- d hCG
- e エストラジオール

24 20歳の女性。2日前から排尿時痛と頻尿を認め、残尿感も出現したため来院した。体温 36.5℃。血圧 110/60 mmHg。胸部、腹部に所見なし。肋骨脊柱角に叩打痛なし。皮疹なし。尿検査：蛋白(－)、潜血＋。

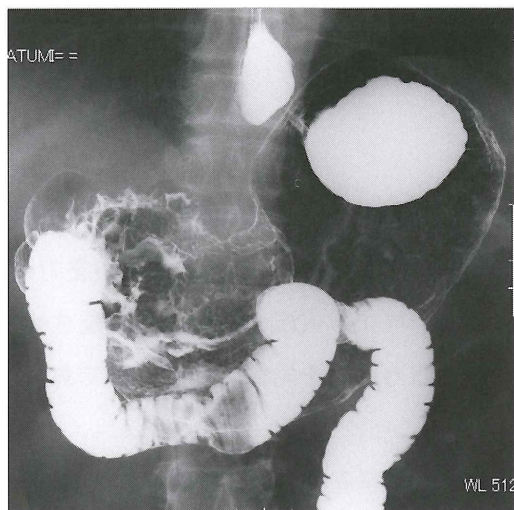
尿所見で認められる可能性の高いのはどれか。2つ選べ。

- a 糖 2＋
- b 赤血球円柱
- c 亜硝酸塩＋
- d 白血球 > 100 /HPF
- e ウロビリノーゲン 2＋

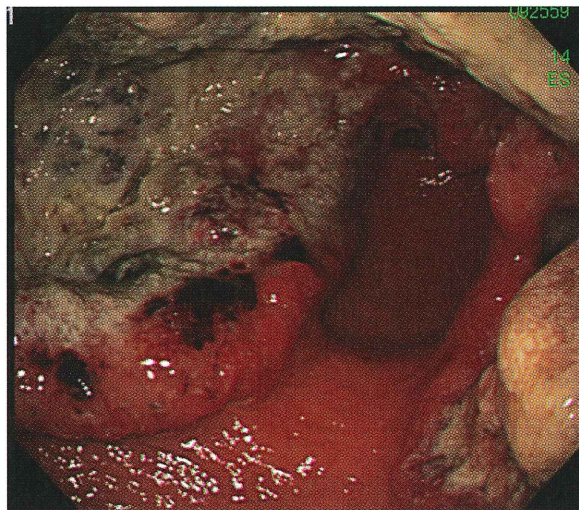
25 65歳の男性。約3週間前より食後の上腹部痛が出現したため近医を受診した。胃内視鏡検査で胃癌と診断され当院を紹介された。上部消化管造影写真、胃内視鏡写真、造影CT写真を示す。

正しいのはどれか。2つ選べ。

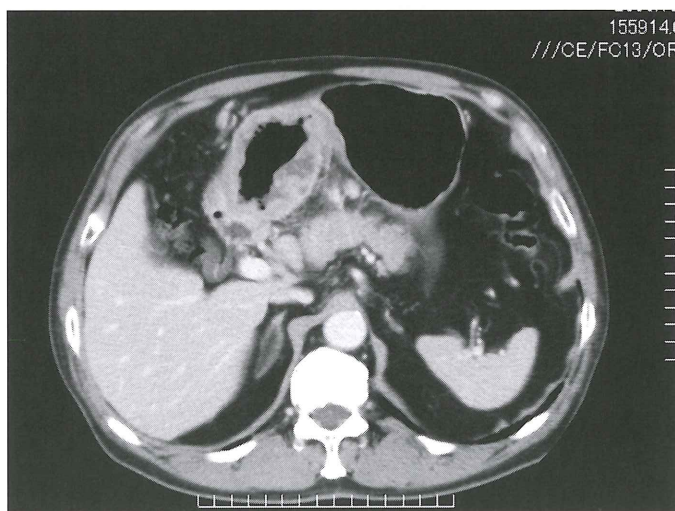
- a 根治術可能な場合は2群リンパ節郭清を行う。
- b 十二指腸浸潤を認めれば根治術は不可能である。
- c 根治術可能な場合は胃十二指腸動脈を切離する。
- d 洗淨細胞診で癌陽性であれば根治術は不可能である。
- e 横行結腸に直接浸潤を認めれば根治術は不可能である。



上部消化管造影写真



胃内視鏡写真



造影CT写真

26 35歳の男性。勤務中に上腹部痛を訴えトイレで吐血したため、同僚とともに会社近くの無床診療所を独歩で受診した。意識は清明で会話も可能だが、顔面は蒼白である。数日前から部署内での業務上トラブルがあり、帰宅が24時を過ぎることもあったという。

身体所見では、脈拍120回/分、血圧90/54 mmHg。心窩部に圧痛を認めたため、診療所近くの地域医療支援病院に紹介された。担当医は入院が必要と判断し、本日より入院することになった。

担当医として入院時行うべきことはどれか。2つ選べ。

- a 特定機能病院を紹介する。
- b 入院診療計画書を作成する。
- c 労働基準監督署に通告する。
- d 医療安全支援センターを紹介する。
- e 必要な検査についてインフォームドコンセントを行う。

27 40歳の男性。1週間前に感冒に罹患した。今朝急に回転性めまいがした。安静にしても止まらず回り続けるため救急車にて来院した。自覚的な蝸牛症状はない。来院時右向きの定方向性水平回旋混合性眼振を認めた。夕方になっても回転性めまいは止む気配がないため入院させた。結局この回転性めまいは3日間続いた。軽快後に標準純音聴力検査を施行したが正常であった。前庭神経炎を疑い、温度眼振検査（Caloric Test）を施行することにした。

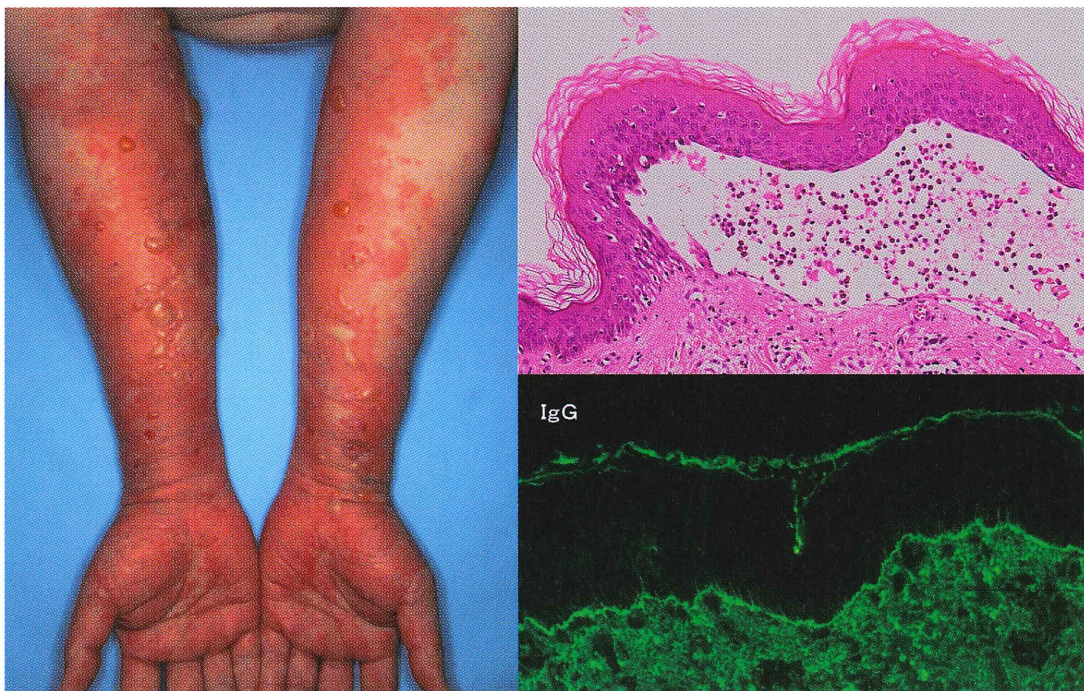
本検査において患者を仰臥位とし、頭部を30°挙上させた際に垂直位になるのはどれか。

- a 球形囊
- b 卵形囊
- c 前半規管
- d 後半規管
- e 外側半規管

28 60歳の男性。全身の皮疹を主訴に来院した。1か月前から、特に誘因なく全身に痒みを伴う紅斑と水疱とが多発するようになったという。体幹と四肢に紅斑と水疱を認める。粘膜疹を認めない。両前腕屈側の写真と皮膚生検の病理組織および蛍光抗体直接法所見を示す。

考えられる疾患はどれか。2つ選べ。

- a 尋常性天疱瘡
- b 落葉状天疱瘡
- c 水疱性類天疱瘡
- d 先天性表皮水疱症
- e 天性表皮水疱症



両前腕屈側の写真と皮膚生検の病理組織および蛍光抗体直接法所見

29 WHO方式がん性疼痛治療の5原則でないのはどれか。

- a 鎮痛薬はできる限り簡便な経路で投与する。
- b 痛みの強さに応じた効力の鎮痛薬を選ぶ。
- c 鎮痛薬は患者ごとの適量を決める。
- d 鎮痛薬は食後に投与する。
- e 細かい配慮を行う。

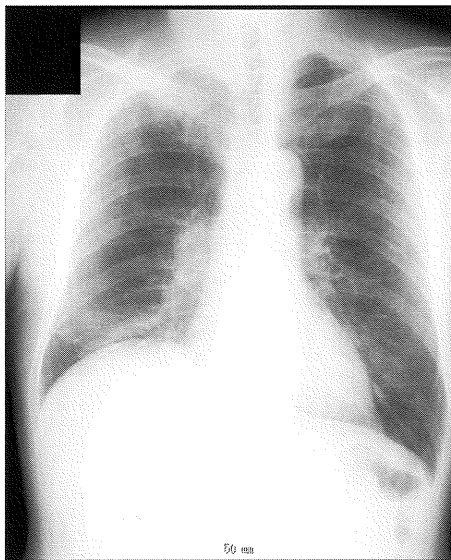
30 迅速病理診断検査として、**適切でない**のはどれか。

- a 細菌の有無
- b 壊死の有無
- c 好中球の有無
- d 癌細胞の有無
- e 神経節細胞の有無

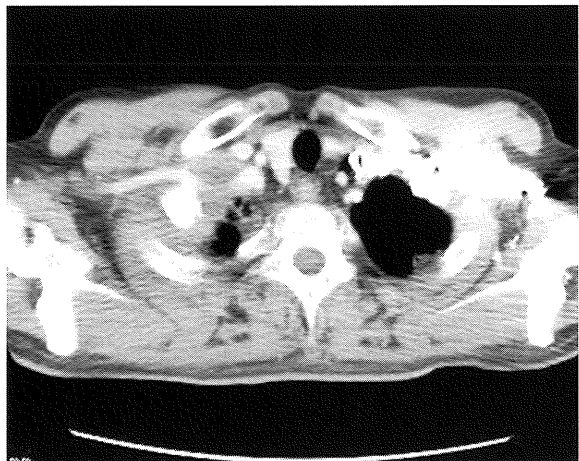
31 66歳の男性。約2か月前から右肩から右上肢にかけてのしびれと疼痛が出現し、近医で鎮痛薬を処方されたが改善しないため受診した。特記すべき既往歴なし。喫煙は40本/日を40年間。体温36.8℃。呼吸数15/分。脈拍90/分、整。血圧120/62 mmHg。SpO₂ 96%（室内気吸入下）。意識清明、瞳孔不同なし。眼裂の左右差なし、顔面の浮腫なし。頸静脈怒張なし。聴診上は異常所見を認めず。右上腕は外観上異常はないが、握力低下を認めた。頭部MRI上は明らかな異常を認めなかった。この患者の胸部エックス線写真と胸部造影CTを示す。

この患者の状態として正しいのはどれか。

- a 上大静脈症候群
- b Horner症候群
- c 癌性胸膜炎
- d 重症筋無力症
- e 上記のいずれでもない



胸部エックス線写真



胸部造影CT

32 83歳の男性。全身倦怠感、労作性の息切れのため来院した。血算の結果を示す。

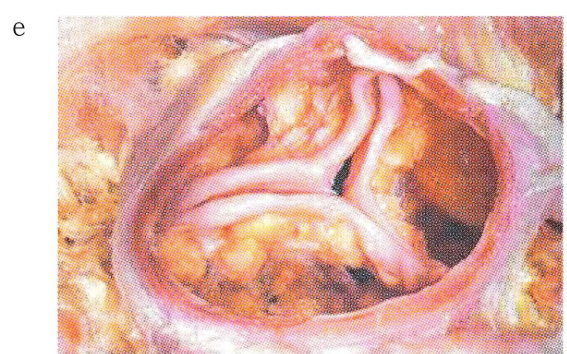
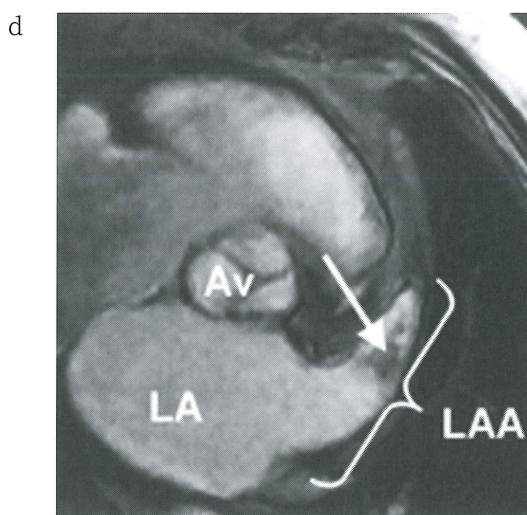
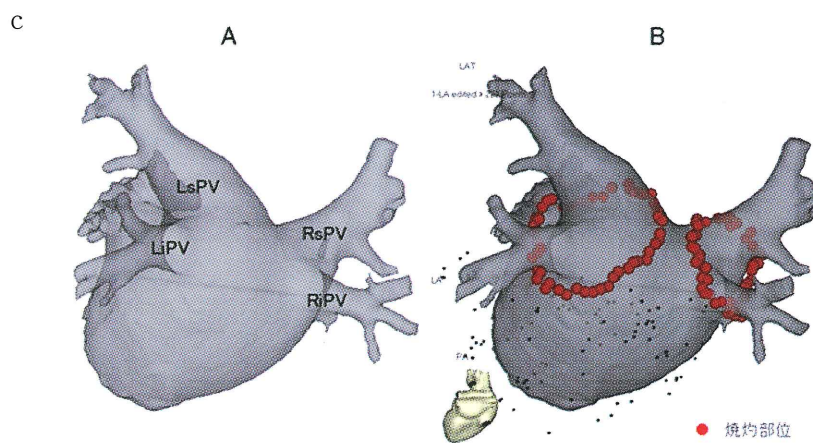
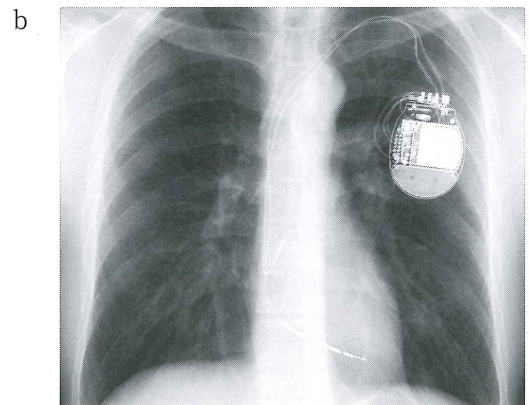
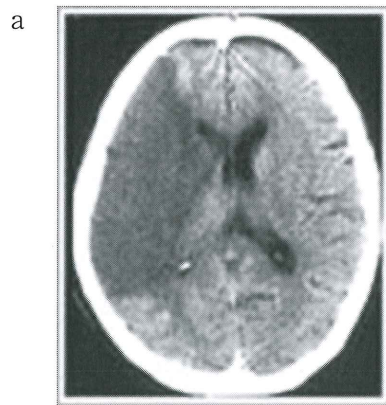
可能性の高い疾患はどれか。2つ選べ。

- a 鉄欠乏性貧血
- b 再生不良性貧血
- c 巨赤芽球性貧血
- d 骨髓異形成症候群
- e 自己免疫性溶血性貧血

01 WBC	5.3	$\times 10^3/\mu\text{L}$
02 RBC	1.22	$\times 10^6/\mu\text{L}$
03 HGB	5.3	g/dL
04 HCT	14.8	%
05 MCV	121.3	fL
06 MCH	43.4	pg
07 MCHC	35.8	%
08 PLT	13.6	$\times 10^4/\mu\text{L}$
09 MYEL-B	0.0	%
10 PRO-M	0.0	%
11 MYELO	0.0	%
12 MET-M	0.0	%
13 STAB	0.0	%
14 SEGMENT	77.0	%
15 EOSINO	0.0	%
16 LYMP	19.0	%
17 MONO	2.0	%
18 BASO	2.0	%
19 A-LYMP	0.0	%

血算の結果

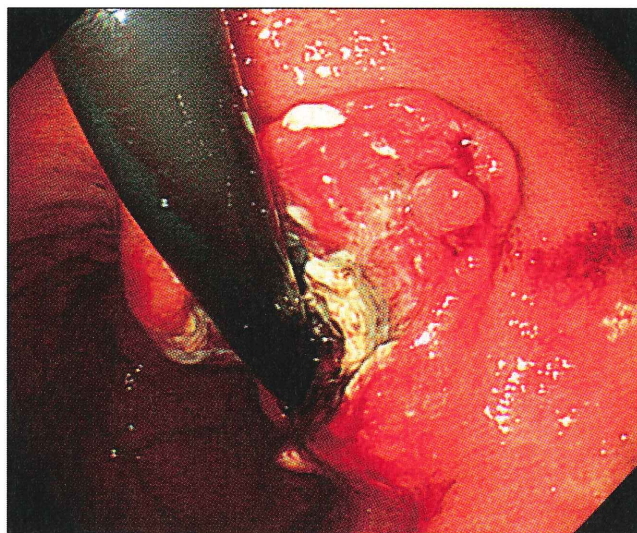
33 次のうち心房細動と関係ないのはどれか。2つ選べ。



34 60歳の男性。2週間ほど前から食物のつかえ感を自覚していた。2 kgの体重減少と黒色便を認め来院した。身体所見では眼瞼結膜に軽度の貧血を認めた。上部消化管内視鏡写真を示す。

誤っているのはどれか。

- a 幽門前庭部のスキルス胃癌
- b 胃角部の出血を伴う早期胃癌
- c 胃角部の出血を伴う悪性リンパ腫
- d 噴門部の出血を伴う難治性胃潰瘍
- e 噴門部の出血を伴う2型進行胃癌



上部消化管内視鏡写真

